

193 9月27日 全權報告書

齋藤・石井両全權総括報告

本委員等曩ニ大命ヲ拝シ瑞西国寿府ニ開催ノ日英米三国海軍備制限會議ニ参列シ約一月半ニ亘リ帝國政府訓令ノ趣旨ヲ体シ微力ノ最善ヲ尽シタリ今本會議ノ構成経過及成績ニ付既報ノ諸点ヲ綜合輯録シテ当路ノ清鑑ニ供セントス
右謹テ復命ス

昭和二年九月二十七日

全權委員

子 爵 齋藤 實
子 爵 石井菊次郎

海軍軍備制限會議總括報告

目 次

第一章 緒 言	
第二章 議 題	
第三章 會議ノ組織及議事方法	

第四章 日英米三国提案

第一節 米國提案

第二節 英國提案

第三節 日本提案

第五章 米英両国提案ニ対スル觀察

第六章 各種問題討議ノ経過

第一節 総 説

第二節 制限外艦船

第三節 潜水艦問題

第四節 駆逐艦問題

第五節 巡洋艦問題

第六節 専門委員會ノ決定事項ニ関シ執レル措置

第七節 主力艦問題

第七章 米國新提案ト我方ノ対策

第八章 第二回總會議前後ノ状況

第九章 日英妥協案ノ成立ト其ノ効果

第十章 英國全權ノ帰國ト其ノ新提案

第十一章 第三回總會議前ノ形勢ト我調停案	
第十二章 第三回總會議ト會議ノ休会	
第十三章 結 論	

付 録

第一 三国海軍軍備制限會議日誌

第二 會議ノ組織及帝國全權事務所ノ構成

第一章 緒 言

一九二七年二月十日米國政府ハ日、英、仏、伊四國政府ニ対シ更ニ海軍軍備ヲ制限シ本問題ニ関スル華盛頓條約ヲ補充スベキ協定作成ノ目的ヲ以テ寿府ニ於テ會合商議セムコトヲ提議シ右ニ対シ日英兩國ハ欣然之ニ参加ヲ受諾シタルモ仏國ハ軍備制限問題ハ目下國際連盟主宰ノ軍縮準備委員會ニ於テ審議中ナルコト及軍備ノ制限ハ陸、海、空ノ三軍ヲ総括シテ論議スルニ依リテノミ所期ノ目的ヲ達シ得ベク海軍軍備ノ制限ノミヲ单独ニ取扱フハ賢明ノ策ニ非ザルコトヲ理由トシテ米國提議ヲ拒絶シ伊國亦軍備制限ハ萬國のナラザルベカラズシテ単ニ五大國ノミニテ之ヲ議スルモ有効ナラザルベキコト及伊國ノ關スル限り其ノ特殊ノ地理的

位置ニ鑑ミ現下ノ海軍力が既ニ國防上ノ必要ニ不充分ナルコトヲ理由トシテ會議不参加ノ意ヲ回答シタリ依テ米國政府ハ三月五日在米日英兩國使臣ニ対シ右兩國ニ於テ仏、伊ヲ除キタル三国會議ノ開催ニ贊セラルルヤ否ヤヲ照會シ日英共ニ之ニ贊意ヲ表シタルヲ以テ茲ニ愈々三国限リニテ本件會議ヲ開クコトニ決シ仏伊兩國ニ対シテハ何等非公式ノ方法ニ於テ代表者ヲ出サムコトヲ重ネテ提議シ右兩國ハ結局夫々傍聴者ヲ會議ニ出席セシムルコトナレリ、斯クテ會議ハ六月二十日寿府國際連盟本部ニ於テ米國全權ノ挨拶ヲ以テ開會セラレ爾來約一ヶ月半ニ亘リ總會議ヲ開クコト三回、幹部會四回、専門委員會九回其ノ他非公式全權會合等殆ンド連日ニ亘リテ會合ヲ重ネタルモ不幸會議ハ遂ニ何等ノ協定ニ達スルコトナク八月四日ノ總會議ヲ以テ休會スルノ止ムナキニ至レリ

第二章 議 題

米國政府ハ本會議ノ招請ニ當リ特ニ具體的ニ議題ヲ明示セサリシト雖本會議開催ノ目的トシテ海軍軍備制限ニ関スル華盛頓條約ヲ補充シ同條約ノ規定シ居ラサル艦船ヲ網羅スヘキ協定ノ作成ヲ拳ケタルニ顧ミ其ノ論議ノ主題カ補助艦

即チ巡洋艦、駆逐艦及潜水艦ニ存シタルコト殆ント疑ナカリシ所ナリ然ルニ第一回総会議ニ於テ英国全権ヨリ主力艦ニ関シ噸数制限及艦齡延長ヲ提議スルニ及ヒ茲ニ會議ノ議題ノ範圍ニ付多少ノ議論ヲ惹起スルニ至レリ即チ米國全権ハ主力艦ニ關スル問題ハ既ニ華盛頓條約ノ規定スル所ナルヲ以テ本會議ノ議題ニ屬スヘカラサルコトヲ主張スルニ對シ英國全権ハ同國政府力其ノ會議參加ニ關スル對米回答ニ於テ討議ノ範圍ニ付明カニ余裕ヲ存シ置キタルニ鑑ミ補助艦問題ノミノ論議ニ束縛セララル謂ナシトノ反駁ヲ繰返シタルカ帝國政府力補助艦問題ニ關シ何等協定ニ達シタル後ハ主力艦問題ニ關シ英國提案ヲ議スルニ異議ナキコトヲ表示シ米國全権亦之ニ予備的考慮ヲ加フルノ用意アルコトヲ声明スルニ及ヒ一時落着シタルモ本會議ノ主題タル補助艦ニ關スル協定不調ニ終リタル結果主力艦問題亦自然消滅ノ形トナリテ止ミタリ

第三章 會議ノ組織及議事方法

會議ノ組織ハ先ツ公開ノ總會議ヲ形式上ノ中心機關トシ右總會議ノ下ニ三國全権委員ヨリ成ル幹部会 (Executive Committee) ヲ設ケ總會議及委員會ノ仕事ニ關スル「プロ

グラム」ヲ作り且諸委員會ノ設置及總會議ノ仕事ノ處理ニ關シ適當ト思惟スル提案ヲナスコトシタルカ右幹部会ハ一ノ専門委員會ヲ任命シ之ヲシテ日、英、米三國提案ヲ正當ニ考慮シ得ムカ為三國ノ現存巡洋艦、駆逐艦、潜水艦ノ噸数並ニ協賛ヲ經予算割當濟ニ屬スル此等艦種ノ計量噸数ニ關スル統計其ノ他三國提案ヲ明カニスヘキ他ノ資料ノ交換ヲ行ハシムルコトヲ決議シタリ

尚右専門委員會ノ下ニ一ハ巡洋艦及駆逐艦ノ問題ヲ他ハ潜水艦ノ問題ヲ研究セシムル為二個ノ専門部会ヲ構成シ其ノ研究ノ結果ニ成ル予備的建議ハ之ヲ幹部会ニ提出セシムルコトトシタリ

以上公式ノ諸會合ノ外三國全権並委員ハ隨時非公式ニ懇談會ヲ開キ三國提案ノ間ニ存スル各國ノ主張又ハ見解ノ相違ヲ調和セシムルニ努力シ是カ會議全般ノ議事ヲ促進スルニ与リテ特ニ甚タ力アリシハ固ヨリ言フ俟タサル所ナリ

第四章 日英米三國提案

第一節 米國提案

六月二十日會議開會ト共ニ劈頭米國全権「ギブソン」氏ハ一場ノ演説ト共ニ米國政府ノ補助艦制限ニ關スル提案ヲ披

露シタルカ右ハ華盛頓會議ノ採用セル比率及原則ヲ以テ商議ノ基礎トセントスルモノニシテ今次會議ノ目的トスル新條約ハ華盛頓條約ト期限ヲ同シウシ且之ト同様ノ延長又ハ變更ニ關スル規定ヲ包含スヘク何レカノ締約國ニ於テ海軍力ニ依ル自國安全ノ要件カ四圍ノ狀況ノ變化ニ依リ重大ナル影響ヲ受ケタリト認ムル場合ハ條約ノ再議ヲ可能ナラシムルコト望マシカルヘキ旨ヲ前提セリ其ノ要旨左ノ如シ補助艦ノ制限ハ左記艦種別ニ基キ之ヲ規定スヘシ

イ、巡洋艦級

ロ、駆逐艦級

ハ、潜水艦

ニ、制限外艦艇

各艦種總噸数ノ制限ニハ各艦種ニ付現狀ヨリ最終制限噸数ニ達スル過渡時代ノ必要ニ応スル為多少ノ變更ヲ認ムルヲ要ス米國ハ各艦種ノ制限噸数ニ付提言スルモ各種補助艦ニ付華府條約ノ定ムル原則(比率ノ意)ニ基キ日英兩國ニシテ同意スルニ於テハ出來得ル限り低キ総制限噸数ヲ承認セントス

定義

巡洋艦級トハ三千噸以上一萬噸以下ノ基準排水量ヲ有シ口径八吋ヲ超ユル砲ヲ裝備セサル一切ノ水上艦ヲ言フ
駆逐艦級トハ基準排水量六百噸以上ニシテ三千噸ニ達セサル十七節以上ノ計画速力ヲ有スル一切ノ水上艦ヲ言フ
潜水艦トハ海面下ニ於テ行動スルヲ目的トスル一切ノ艦艇ヲ言フ
制限外艦艇トハ戦闘用価値局限セラレタル艦艇ヲ言フ本艦種ニ屬スヘキ艦艇ノ技術的定義ハ追テ協定スヘシ

代換

各艦種ノ代換ニ要スル定年ハ左ノ通りトス

一、巡洋艦 二十年

二、駆逐艦 十五—十七年

三、潜水艦 十二—十三年

噸数制限ノ提案

巡洋艦級 総噸数制限

米國 二五〇、〇〇〇乃至三〇〇、〇〇〇

英帝國 二五〇、〇〇〇乃至三〇〇、〇〇〇

日本 一五〇、〇〇〇乃至一八〇、〇〇〇

駆逐艦級

米 国	二〇〇、〇〇〇乃至二五〇、〇〇〇
英 帝 国	二〇〇、〇〇〇乃至二五〇、〇〇〇
日 本	一二〇、〇〇〇乃至一五〇、〇〇〇
潜 水 艦	
米 国	六〇、〇〇〇乃至九〇、〇〇〇
英 帝 国	六〇、〇〇〇乃至九〇、〇〇〇
日 本	三六、〇〇〇乃至五四、〇〇〇

巡洋艦級及駆逐艦級ニ付現状ヨリ右ニ提議セル一定ノ制限噸数ニ達スル過渡時代ヲ律スル為過渡期間ニ於テハ現存巡洋艦及駆逐艦ノ噸数ハ之ヲ一括シテ考慮シ廢棄スヘキ噸数ハ巡洋艦及駆逐艦級制限噸数ノ合計ヲ超過スル噸数タルヘキコトヲ提言ス但各艦種ニ於ケル代換ハ当該艦種ニ認メラレタル最大噸数ノ範圍内ニ於テノミ許サルヘシ右提議ヲ巡洋艦及駆逐艦ニ付総噸数夫々三十万噸及二十五万噸トシテ適用スルトキハ次ノ如シ

イ、巡洋艦及駆逐艦ノ総噸数合計ハ如何ナル時ニモ左記ヲ超ユルコトヲ得ス

米 国	五五〇、〇〇〇噸
英 帝 国	五五〇、〇〇〇噸

日 本	三三〇、〇〇〇噸
ロ、完成ノ日ヨリ二十年ニ達セサル巡洋艦級ノ総噸数ハ左記ヲ超過スル如ク増加スヘカラス	
米 国	三〇〇、〇〇〇噸
英 帝 国	三〇〇、〇〇〇噸
日 本	一八〇、〇〇〇噸
ハ、完成ノ日ヨリ十五年ニ達セサル駆逐艦級ノ総噸数ハ左記ヲ超過スル如ク増加スヘカラス	
米 国	二五〇、〇〇〇噸
英 帝 国	二五〇、〇〇〇噸
日 本	一五〇、〇〇〇噸

ニ、現存巡洋艦及駆逐艦級中制限噸数ヲ超過スルモノハ凡テ之ヲ廢棄スヘシ廢棄スヘキ艦船ノ選択ハ艦艇ヲ廢棄スル国自ラ之ヲ行フ制限噸数ノ範圍内ト雖モ廢棄セラレタル艦艇ハ右艦艇カ当該艦種ノ定年ニ達スヘカリシ日迄代換セラルコトナカルヘシ

第二節 英国提案

米国提案ノ發表ニ次キ英国全權「ブリッヂマン」氏ハ今ヤ華盛頓會議ニ更ニ一步ヲ進ムルノ機熟セリト信スル処参加

三国ニ於テ各自ニ特殊ナル地位ニ対シ充分同情ヲ以テ之ヲ迎フルノ用意アルコト疑ナキカ故ニ各国各々率直ニ其ノ欲スル所及其ノ欲スル所以ヲ陳フルハ會議ノ成功ヲ齎ス所以ナルヘキ旨ヲ前置シ此点ニ於テ英国ノ地理的位置並其ノ通商路及海岸線ノ長キ事実カ自ラ英国ヲ他国ト異ナル地位ニ置キ從テ海軍制限カ英国ニ執リ特ニ困難ナルコトヲ説キタル上左記ノ提案ヲ為セリ

一、現存主力艦ノ年齢ヲ二十年ヨリ二十六年ニ延長シ從テ三国ハ華府ニ於テ協定セル代換表ニヨル權利ヲ其儘完全ニ行使スルコトナカルヘシ此ノ如キ協定ハ自然右代換表ノ数字ニ対シ些少ノ伸縮ヲ加フル必要ヲ生スヘシ

二、其ノ他ノ軍艦艦齡ヲ左ノ通決定ス

イ、八吋砲巡洋艦	二十四年
ロ、駆 逐 艦	二十年
ハ、潜 水 艦	十五年

三、将来建造セラルヘキ戦闘艦ノ大サヲ現在ノ三万五千噸限度ヨリ約三万噸以内ニ縮少ス

四、戦闘艦ノ備砲ノ大サヲ現在ノ十六吋限度ヨリ十三吋

半ニ縮少ス

五、航空母艦排水量ヲ二万七千噸ノ代リニ二万五千噸ニ制限ス

六、航空母艦ノ備砲ヲ八吋ヨリ六吋ニ縮少ス

七、排水量一万噸備砲八吋ノ巡洋艦ニ対シ五、五、三ノ現存比率ヲ承認ス

三国カ夫々必要トスル右大巡洋艦ノ数ハ後日討議ノ目的タルコトヲ得

八、一万噸級巡洋艦數ノ決定セラレタル後一切ノ将来ノ巡洋艦ニ対シ七千五百噸及六吋砲ノ制限ヲ加フルコト

九、排水量制限

イ、嚮導艦ハ 一、七五〇噸

ロ、駆逐艦ハ 一、四〇〇噸

十、駆逐艦備砲ハ五吋ニ制限ス

十一、潜水艦

華府會議ニ於テ我全權ハ戦闘用トシテノ潜水艦使用廢止ニ付合意ナラムコトヲ欲スル旨述ヘタリ右會議以來吾人ハ其ノ意向ヲ變更セス然レトモ吾人ハ大型軍艦ヲ多ク有セサル諸国力潜水艦ヲ有スルコトヲ以テ重要ナル防禦ノ武器ト看

做スコトヲ承認ス

右ト同時ニ若シ戰艦其ノ他ノ比較的有力ナル軍艦制限ニ
關シテ吾人ノ為シタル提議ヲ採用セラルルニ於テハ潜水艦
ノ大サ及更ニ亦隻數ニ付テモ或ル制限ヲ提言スルハ不合理
ニ非サルヘシト思惟ス

故ニ吾人ハ大型潜水艦ノ噸數ハ千六百噸ニ、小型ノソレハ
六百噸ニ又各潜水艦ノ備砲ハ五吋砲ニ制限センコトヲ提議
ス尚潜水艦隻數ヲ各国ノ異ナレル必要ニ応シテ制限スルハ
可能ナルヘク此ノ点ニ付討議スルコト望マシト思考ス而シ
テ潜水艦數ニ制限ヲ加フルトキハ駆逐艦數ヲ制限スルコト
比較的容易ナルコトヲ記憶セサルヘカラス又此等ノ点ニ付
他國ト合意ナルトキハ吾人カ各有スヘキ巡洋艦隻數ヲ考慮
スルコトモ亦可能ナラム

吾人ハ敷設艦、小型航空母艦、水雷艇、掃海艇、特務艦及
純然タル局地的防禦艦船ノ如キ雜種艦艇ニ關シテハ一定ノ
提案ヲ為ササリシト雖モ吾人ハ一切ノ種類ノ艦艇ヲ含ム包
括的分類表ヲ作成シ該表中ニ於テ噸數及備砲制限ノ提言ヲ
ナシ置ケリ右ハ此等雜種艦艇發達ノ結果重要艦種ノ協定ヨ
リ生スル安全狀態カ脅威セラレムコトヲ防止スルヲ唯一ノ

目的トスルモノナリ

第三節 日本提案

最後ニ齋藤子爵ハ補助艦ノ用途多端ニシテ其ノ重要ノ程度
ハ各国ノ国情ニ依リテ變化スル処之ニ關スル各国ノ所要ヲ
具體的ニ表現スルモノハ現ニ其ノ保有シ及保有セントスル
兵力ナルヲ以テ此ノ意味ニ於ケル各国補助艦ノ現狀ニハ特
ニ十二分ノ考慮ヲ加フルノ要アルコト並各國国防ノ安固ヲ
計リ軍備ノ擴張ヲ防止スルハ軍備協定ノ最重要ナル使命ナ
ルヲ以テ各国ノ現有スル安全感ノ基礎ヲ動搖セシムルガ如
キ現狀ニ對スル大ナル變化ハ努メテ之ヲ避ケザルベカラザ
ル事ヲ述ベタル後左ノ如ク我提案ヲ披露セリ

(華府海軍條約ノ規定ニ依ル主力艦、航空母艦ハ之ヲ本提
案ノ外トス)

一、各国ハ協定期間其ノ海軍勢力増加ノ目的ヲ以テ新ニ
造艦計畫ヲ採用シ又ハ軍艦ヲ取得セザルベキコト

二、前号ニ掲グル「海軍勢力」トハ(イ)各国ノ保有ス
ル既成艦艇中現ニ第四号ノ規定ニ依ル代換艦齡ニ滿タ
ザルモノノ噸數及(ロ)各国ノ現ニ建造中ノ艦艇ノ計
画噸數ヲ基礎トシテ協定スベキ水上補助艦ノ艦種ニ属

スル合計噸數及潜水艦ノ艦種ニ属スル合計噸數ヲ謂フ
各国ニ許容セラルベキ海軍勢力ノ協定ニ當リテハ(イ)
各国ノ既定計畫中建造未着手ノ艦艇ノ計画噸數及(ロ)

既定計畫實施中ニ代換艦齡ヲ經過スベキ艦船ノ噸數ヲ
モ考慮スベキコト

三、左ニ掲グル艦船ハ前二号ノ適用ヨリ之ヲ除外スルコ
ト

(イ) 排水量七百噸ヲ超過セサル艦艇

(ロ) 六吋砲以下ノ砲四門以内(三吋砲以下ノ砲ハ之
ヲ計上セズ)ノ武装ヲ有スル水上艦船但シ速力ハ二
十節ヲ超ユベカラズ

(ハ) 一万噸ヲ超過セザル航空母艦

四、第二号ニ依リ協定セラレタル海軍勢力ヲ超過セザル
範圍内ニ於テ各国ハ左記艦齡ヲ經過シタル艦艇又ハ亡
失セル艦艇ニ就キ各種別ニ從ヒ艦艇ノ建造又ハ取得ニ
ヨリ之ヲ代換スルコトヲ得

水上補助艦	三千噸以上	一六年
	三千噸未満	一二年
潜水艦		一二年

制現代換艦齡ハ前項ニ規定スルガ如シト雖モ現ニ特殊
ノ調節ヲ要スルガ如キ狀況ニ對シテハ除外例ヲ認ムル
ヲ妨ゲズ

五、第一号及第二号ニ依リ協定セラレタル海軍勢力ヲ超
過スル噸數及第四号ノ規定ニ依リ代換セラレタル艦艇
ハ別ニ協定セラルベキ方法ニ依リ之ヲ処分スルコト

六、代換建造ニ方リテハ急激ナル勢力ノ變化ヲ避クル為
及毎年度ノ製艦率ヲ均齊ナラシムル為適當ノ規定ヲ設
クルコト

第五章 米英兩國提案ニ對スル觀察

前頭米英兩提案ニ付考究ヲ加フルニ米國案ハ專ラ華盛頓條
約ノ定ムル五、五、三、ノ比率ノ適用ヲ以テ討議ノ基礎ト
ナサントスルニ在ル処之ヲ各項目ニ付我立場ヨリ批判スル
ニ第一、艦種別ニ依リ制限ヲ規定セムトスル点我方トシテ
強イテ異存ナク第二、艦齡モ之ヲ今後起工ノ艦船ニ適用ス
ルニ於テハ大体ニ於テ差支ナク第三、過渡期代換ノ方法モ
先ヅ贊成シ得ベシト認メラルル処第四、三国ノ保有シ得ベ
キ總噸數ニ付テハ比率ヲ飽ク迄五、五、三、トスルニ對シ
テハ同意ヲ難シトスベキ所ニシテ米國提案ニ對スル最困難

ノ点ハ茲ニ在リ

一方英國側ニ於テハ右米國案ニ対シ右ハ徒ニ華盛頓會議延長論ヲ振廻シ五、五、三、ノ比率ヲ押通スト言フニ過ギズシテ各艦種ノ噸數及備砲ニ付何等ノ制限ヲ設ケザルガ故ニ例ヘバ如何ナル大型潜水艦建造モ妨ゲナキコトナルベク果シテ此ノ如クンバ英國ノ如キ主力艦ノ噸數ヲ減ジ得ザルノミナラズ却テ之ヲ増加スルノ必要ヲ感ズルニ至ルヤモ知レズトノ批評ヲ下シ此ノ如キ不安ノ念ニ驅ラルル間ハ軍備制限ニ付何等責任アル言説ヲ表明シ能ハザルヲ虞ルト言ヘリ然ルニ他方米國側ニ於テハ右比率ニ関シ三国ハ西太平洋ニ於テ互ニ均等ノ勢力ヲ有スルコトヲ目標トスベキ処日本ニシテ五割ノ兵力ヲ有スルニ於テハ其ノ地理的優越ト相俟チテ均勢トナルベク從テ六割既ニ稍々過大ナリ況ヤ七割トナリテハ余リニ優勢トナリテ均等勢力ヲ破壊スベシトノ見解ヲ持セリ

次ニ英國提案ニ付我方ノ立場ヨリ之ヲ検討スルニ同案ハ噸テ各國ノ保有スベキ隻數問題ヲ論ズルニ当リ相当ノ困難アルベク且八吋砲巡洋艦ニ対シ五、五、三、ノ比率ヲ適用セントスルハ注意ヲ要スベシ更ニ艦型制限ニ関シテハ潜水艦

目ノ点ニ入ルニ先チ先ツ主ナル論点ニ付決定ニ達スルヲ可トストノ論ヲ持シテ容易ニ之ニ応セザリシカ結局我方ノ提議ニ依リ二個ノ専門部会ヲ設置シ一ハ巡洋艦及驅逐艦等水上補助艦ノ問題ヲ他ハ潜水艦ノ問題ヲ研究セシムルコトニ決シ更ニ専門家ノ会合ニ於テ我方ノ提議ニ依リ先ツ以テ制限内ニ入ルヘキ艦船ヲ明確ナラシムル為メ制限外艦船ヲ討議スルコトトナレリ

第二節 制限外艦船

制限外艦船ノ問題ハ六月二十七日、七月一日及同五日ノ三回ニ亘リ開カレタル専門委員会ニ於テ審議セラレタルガ右ノ結果トシテ委員間ニ意見ノ一致ヲ見タル諸点ハ七月八日ノ第三回幹部会ニ之ヲ提出セリ右討議ノ経過及決定事項大要左ノ通り

- (一) 小型水上艦艇ノ制限外限度トシテ我方ハ七百噸米國ハ六百噸英國ハ四百噸ヲ各提案シ種々論議ノ結果結局三案ヲ折衷シ排水量六〇〇噸未滿ノ水上艦艇ハ其ノ戰闘用タルト否トヲ問ハズ之ヲ制限ヨリ除外スルコトニ決定セリ

- (二) 米國ノ提案ニ係ル六百噸乃至三千噸ノ戰闘用水上

以外ノ排水量ニハ考慮ノ余地アルベキモ潜水艦ノ排水量並主力艦航空母艦及巡洋艦ノ砲裝制限ニハ同意シ得ズト認メラルモノアリ

右英國提案ニ対シ主トシテ米國側ガ其ノ主力艦ニ關スル部分ニ付之ヲ今次會議ノ討議ノ範圍外ナリトシテ排斥セントシタル顛末ハ別章ニ説ク所ノ如ク又巡洋艦ノ艦型ヲ制限セントスル点ニ対シ徹頭徹尾反対ノ態度ニ出デタルコト後述ノ如シ

第六章 各種問題討議ノ経過

第一節 総 説

専門委員会ハ會議開会ノ翌々日より直ニ会合ヲ催シ先ツ十二日ノ第一回會合ニ於テハ三国ヨリ各々自國提案ニ關スル説明ヲ為スト共ニ各種材料ノ交換ヲ行ヒタルカ右ニ次ギ同委員会ヲシテ如何ナル順序ニ依リ細目ノ審議ニ入ラシムヘキヤニ付テハ幹部会其ノ他ニ於テ三国委員間ニ相當議論アリ英國側ハ抵抗最モ少キ点ヨリ解決スルヲ可トストノ理由ノ下ニ部分的ニ先ツ潜水艦ノ大小二種区分並各艦種別單艦最大噸數及隻數問題ノ論議ヨリ始メンコトヲ主張シ米國側ハ之ニ対シ最重要ノ点ハ実ニ巡洋艦ノ問題ナルヲ以テ細

艦艇ニシテ十七節未滿ノモノノ除外ニ付テハ日英ヨリ砲裝ヲ日本案ニ速力ヲ日英案ノ通り修正センコトヲ提議セルモ速力ニ対シテ米國ハ相當強硬ニ反対シ結局六百噸乃至二千噸ノ戰闘用水上艦艇ニシテ左ノ条件ヲ具備スルモノヲ除外スルコトニ折合ヒタリ米國原案中三千噸ヲ二千噸ニ縮小セルハ速力限度ヲ十八節トスル代償トシテ英國ノ提案セルモノナリ

イ、六吋ヲ超ユル砲ヲ有セザルコト

ロ、三吋ヲ超ユル砲ノ砲數四門以下ナルコト

ハ、魚雷及飛行機發射ヲナシ得ル様計畫セラレ又ハ其

ノ裝置ヲ有セザルコト

ニ、計畫速力十八節以下ナルコト

- (三) 特務艦船等非戰闘用ノモノニ關シテハ三国案ヲ斟酌シテ左記条件ヲ具備スルモノヲ除外スルコトニ決定セリ(ホ)項ハ元來三国案ニハ無カリシガ特務艦ニシテ多數ノ「カタパルト」ヲ有スルモノノ出現ヲ防止スルト他面將來ノ運送船ニハ飛行機使用ノ要アルベク又飛行機積卸作業ノ便利ヲモ考慮シ英國ヨリ提案セルモノニシテ日米兩國ハ之ニ同意シタルモノトス

イ、砲装魚雷及速力ニ関スル制限ハ前頭(二)(イ)(ロ)
(二)ノ通り

ロ、装甲セザルコト

ハ、機雷敷設ヲナシ得ル様計画セラレ又ハ其ノ装置ヲ有セザルコト

ニ、飛行機着甲板装置ヲ有セザルコト

ホ、飛行機出發装置ハ中央線上ナラバ一基艦側裝備ナラバ各舷一基宛即チ二基ヲ越エザルコト

(四) 現存艦船ニシテ特殊艦型ニ属スルモノハ一定ノモノヲ限り協定ニヨリ指名シテ除外スルコト

(五) 一万噸以下ノ航空母艦ニ付テハ我提案ニ対シ英米側ハ制限外トシテ三国共此種母艦各一隻宛ヲ有スルコトトシ実験ヲ行ハシムルハ可ナルモ一般ニ此種母艦ノ隻數ヲ無制限トスルコトノ危険ナルヲ説キ巡洋艦ノ總噸數中ニ包含セラルベキモノナリト主張ヲ持シ結局一万噸以下ノ母艦ハ未決ノママトナレリ

(六) 七百噸未満ノ潜水艦除外ニ関シテハ我方提案ニ対シ英米共ニ主義トシテ反対ナル旨ヲ声明シ我方再度ノ主張ニ拘ラズ遂ニ承諾ヲ肯ズルニ至ラズ依テ我方ニ於

テ種々考慮ノ結果原案貫徹ニ努ムルノ却テ不利ヲ招クノ狀勢アリタルニ鑑ミ五日ノ委員会ニ於テ大要左ノ趣旨ノ声明ヲ為シテ本問題ヲ打切レリ

「小型潜水艦ハ制限外水上補助艦トハ縱令航統距離ニ於テ差違アリトハ言ヘ日本近海ノ經驗ニ依レバ乗員ノ居住困難ニシテ到底遠距離ニ行動シ得ルノ能力ヲ有セザルモノト認ム故ニ著シク防禦的艦船タル此ノ種潜水艦ニ対シ之ガ除外ヲ認メザル理由ナク從テ日本委員ハ此ノ点ニ関シ從來ノ主張ヲ棄ツルモノニ非ズト雖之ガ為會議ノ進行ヲ阻害スルガ如キハ其ノ欲セザル所ナルヲ以テ一先ヅ之ヲ制限内ニ入ルルコトニ同意スルコトトスルモ將來日本ニ於テ保有スベキ潜水艦ノ數量ヲ決定スルニ当リテハ充分ナル考慮ヲ払ハルベキモノナルコトヲ特言ス」

第三節 潜水艦問題

潜水艦ニ関スル論議ハ七月一日ノ第六回及二日ノ第七回各専門委員会ニ於テ行ハレタルカ先ヅ七百噸以下ノ小型潜水艦ヲ制限外ニ置カムトスル我方提案カ遂ニ英米ノ承認スル所トナラスシテ終リタルハ前章説述スル所ノ如シ次ニ潜水

艦ニ適用スヘキ噸數計算ノ基礎ヲ水上艦船ニ適用スヘキ基準噸數ヨリ更ニ飲料水其ノ他一切ノ水ヲ除去セルモノニ一定スルヲ可トストノ米國提案アリタルニ対シ日英トモ若干研究ノ必要アルヘキモ仮ニ同意セリ次テ將來建造スヘキ潜水艦ノ最大噸數其他ノ討議ニ入リタルカ英國側ハ潜水艦ニ二種ノ區別ヲ設ケ大型ハ千噸乃至千六百噸ニ限定シ小型ハ六百噸以下トシ且六百噸乃至千噸ノ建造ヲ禁止セムコトヲ提議セリ之ニ対シ米國側ハ潜水艦ノ最大噸數ヲ最小千七百噸トシ右以下ハ各國ノ自由ニ委スヘシト為シ我方ハ最大噸數ヲ二千噸トスヘシト主張シ最後ニ日英主張ノ中間タル一

千八百噸ヲ採ルヘシト主張シタル外英國案ノ区分説ヲ承認セス此ノ間英國側ハ大型艦ニ付四十乃至四十五隻小型艦ニ付十五乃至二十隻何レノ場合ニモ合計六十隻ヲ要求シ潜水艦級ノ總噸數ハ最大單艦排水量ノ決定如何ニ依リ變化スヘキモ七万六千噸乃至八万一千噸(英國提案ノ排水量ニ二種ノ場合ノ隻數ヲ乘シタルモノ)ヲ要求スル旨ヲ述ヘタリ艦齡ニ付テハ英國側ハ一五年ヲ我方ハ一二年ヲ又米國側ハ一二年乃至一三年ヲ各提案シ種々意見交換ノ結果結局一三年ニ決定シ備砲ヲ五吋以下ト為スノ点ニ付テハ直ニ三国間

ニ合意成レリ今潜水艦ニ関シ意見ノ一致セル諸点トシテ第三回幹部会ニ提出セラレタル所ヲ掲クレハ下ノ如シ

(イ) 潜水艦水上排水量ノ計算ニ付依ルヘキ方法左ノ通り

「潜水艦ノ基準排水量トハ工事完成シ乗員ヲ充實シ機關ヲ据付ケ且航海準備(一切ノ武器彈藥、齊備品、艤裝品、乗員用ノ糧食及各種需品並戰時ニ於テ裝備スヘキ各種ノ要具ノ搭載ヲ含ム)完成シ唯燃料、機械油、一切ノ清水又ハ「バラスト」用水ヲ搭載セサル艦ノ排水量(非水防部ノ水ヲ除ク)ヲ謂フ」

(ロ) 潜水艦ノ最大單艦排水量ハ一、八〇〇噸トス

(ハ) 潜水艦ニ搭載スヘキ備砲ノ最大口径ハ五吋トス

(ニ) 本艦級ニ属スル新艦ノ代換年齡ハ十三年トス

(ホ) 潜水艦ニ付テハ制限免除艦ヲ設ケス

第四節 駆逐艦問題

駆逐艦ニ関スル問題ハ六月二十九日ノ第四回及三十日ノ第五回兩度ノ専門委員会ニ於テ討議セラレタルカ先ヅ第四回委員会ニ於テ米國側ハ本艦種ノ性能ニ付討議ヲ行フニ先チ各國割當噸數ヲ決定セムコトヲ提議シ之ニ対シ我方ハ總噸

数若ハ隻数決定ノ如キ重要問題ハ此種専門委員会ニテ討議スルヨリモ幹部会ニテ決定セラルヘキ性質ノモノト認メラルルニ付本委員会ニテハ艦型等ノ細目ヲ議スルヲ可トスト酬ヒ結局将来ノ駆逐艦型ノ討議ニ入りタリ先ツ武装ヲ五吋以下ニ制限スル点ハ直ニ合意ヲ見タルカ單艦噸數ノ最大限トシテ駆逐艦ニ於テ英國側ハ千四百噸ヲ日米側ハ千五百噸ヲ各提案シ嚮導驅逐艦ニ於テ英國側ハ千七百五十噸ヲ米國側ハ二千噸ヲ夫々提案シ又艦齡ニ付英國側ハ二十年ヲ米國側ハ十六年ヲ各提案シ之ニ対シ我方ハ諸種ノ狀況ヲ考慮シ十二年ヲ可トスルモ十六年迄延期差支ナキ旨ノ意見ヲ開示セルカ第一日ハ此等ノ点ニ付意見一致スルニ至ラス討議ヲ翌日ニ譲リタルカ米國委員ノ質問ニ応シ英國委員ハ英國ノ所要兵力ヲ二十万七千二百噸トシ之ヲ以テ絶対的ノモノト主張シタルニ対シ米國側ハ兵力ハ相對的ナルヘシトテ兩者ノ間ニ激論ヲ闘ハシタルモ何等決定セス

翌三十日第五回委員会ニ於テ引続キ本問題ノ研究ヲ遂ケタルカ初メ英國委員ハ自國提案カ多年研究ノ結果ナルノミナラス艦型小ナル程行動範圍制限サルヲ以テ遠距離ニ在ル三国間ニハ攻勢的ニ使用困難トナル旨ヲ力説シ驅逐艦最大

次ニ艦齡問題ニ移リ英國ハ艦齡ヲ二十年トスルハ啻ニ經濟上有利ナルノミナラス自然第一線ニ使用シ得ル兵力ヲ減少スルヲ以テ守勢ニ立タントスル國ニ有利ナル旨ヲ述ヘ日米ノ再考ヲ求メタルカ米國ハ自己ノ經驗上十六年ヲ有利ト信スルモ日本ニ於テ更ニ延期ノ意有ルニ於テハ其議ル所ニ從フヘシト述ヘ我方ハ過去ニ於ケル幾多ノ經驗ト氣候風土等ニ鑑ミ十六年以上ニ延期スルコト不可能ナリト述ヘタルヲ以テ結局艦齡ハ仮ニ十六年トスルコトナレリ

右終ツテ英國委員ハ艦型自國案ヨリ大トナレル結果英國所要噸數ハ二十二万一千六百噸トナレル処日米ノ所要噸數如何ト問ヒ米國ハ最初ノ提案ニ於テ二十万噸乃至二十五万噸ヲ示スト共ニ他國ノ同意アルニ於テハ更ニ減少差支ナシト明言シアルモ一般の問題決定セサル今日所要數ヲ明示スルヲ得スト答ヘ我方亦今直チニ數字ヲ示スコト能ハスト陳ヘタリ

今便宜ノ為驅逐艦問題討議ノ結果三国間ニ合意成リタル諸点トシテ第三回幹部会ニ報告セラレタル所ヲ挙クレハ左ノ如シ

(イ) 嚮導驅逐艦ノ最大單艦噸數ハ一、八五〇噸トス

噸數ニ付日米ノ再考ヲ求メタルカ米國ハ千五百噸以下ニテハ耐海性缺乏ストテ自説ヲ固執セルヲ以テ日本亦之ヲ支持シ結局英國ノ讓歩ニ依リ将来建造スヘキ驅逐艦ノ最大噸數ハ千五百噸以下トスルニ決ス次テ嚮導驅逐艦噸數ニ付英委員ハ妥協点トシテ一八五〇噸ヲ提議シ我所見ヲ求メタルヲ以テ帝國海軍ニ於テハ未タ嚮導驅逐艦ナル艦ヲ有セス依テ的確ニ數字ヲ示シ難キモ制限ノ意味ヨリ大觀シ嚮導驅逐艦及驅逐艦ノ最大噸數間ニ大ナル差違ヲ置カサルコト可然ト答ヘタル処米國ハ二千噸ヲ以テ適當ナリト考フルモ他國ノ意向右ノ如クナルニ於テハ暫ク研究ノ上返事シタシト休憩ヲ求メ約三十分ノ後再會、米國ハ結局千八百五十噸ニ同意シ同時ニ水上補助艦甲乙級ノ區別線(後述)ヲ千八百五十噸ニ引下クルコト但シ三千噸以下千八百五十噸以上艦船ノ代換年齡ハ別ニ考慮スルコトヲ提議セルヲ以テ日英共ニ同意シ結局将来ノ嚮導驅逐艦ハ千五百噸以上千八百五十噸以下トスルニ決シ千八百五十噸以上ノ艦船ハ甲級割當噸數中ニ包含スルコトナレリ尚付帶ノ問題トシテ嚮導驅逐艦ハ驅逐艦級ニ充當スヘキ噸數ノ十六%以上建造スルヲ得ストスルニ各国一致セリ

(ロ) 驅逐艦ノ最大單艦噸數ハ一、五〇〇噸トス

(ハ) 備砲口径ハ五吋ヲ限度トス

(ニ) 新艦代換年齡ハ十六年トス

(ホ) 乙艦種艦艇ハ單艦噸數一、五〇〇噸ヲ超ユルコトヲ得ス但シ本艦種総噸數ノ一割六分以内ニ於テ一、八五〇噸ノ艦艇ヲ建造スルコトヲ得

(ヘ) 甲艦種(巡洋艦級)ト乙艦種(驅逐艦級)トノ境界点ハ左ノ如シ

甲艦種ハ制限外艦艇ヲ除キ單艦噸數一、八五〇噸乃至一万噸ノ一切ノ水上艦ヲ包含ス

乙艦種ハ制限艦艇ヲ除キ單艦噸數六〇〇噸數乃至一、八五〇噸ノ一切ノ水上艦ヲ包含ス

(ト) 噸トハ華府基準噸ヲ云フ

第五節 巡洋艦問題

六月二十七日開催ノ第二回専門委員会ハ一般の討議ノ後巡洋艦及驅逐艦ノ兩艦種ハ之ヲ合併シテ一艦種ト看做スヘキヤ否ヤノ問題ヲ議シタルカ米國側ハ自國案ハ之ヲ區別スルモ右ハ必スシモ巡洋艦ト驅逐艦トノ區別ニ非スシテ三千噸以上ト以下トノ艦船ニ分タントスルモノナルニ付之ヲ甲艦

種乙艦種ト指称スルモ可ナリト説明シ我方亦水上補助艦一括説ヲ抛棄スルモノニ非ル旨ヲ声明シ右了解ノ下ニ各別ニ考慮スルコトナレリ斯克テ翌二十八日ノ第三回専門委員会ハ巡洋艦級艦船ノ特性ニ関スル一般的研究ヲ行ヒタルカ先ツ米國側ハ第一回総会議ニ提出セル巡洋艦級二十五万乃至三十万噸案ヲ更ニ提案シ且華盛頓條約ノ主義ニ基キ他國ノ同意スヘキ最低噸數ヲ採用スルノ用意アル旨ヲ付言セリ英國側ハ之ニ対シ巡洋艦ヲ大小二種ノ艦型ニ区分シ一ハ八吋砲ヲ有スル一万噸巡洋艦ノ一定隻數一ハ六吋砲ヲ限度トスル最大軍艦排水量七千五百噸巡洋艦ノ一定隻數トセンコトヲ提議シタルニ米國側ハ全噸數ヲ定ムル以上艦ノ形式ハ各國ノ自由ニ委スヘク小型艦ハ米國ニ執リテ用途渺ナシト断シ英國側ハ其ノ國情上多數ノ巡洋艦ヲ要スル処他國ニシテ一万噸級多數ヲ建造スルニ於テハ之レカ對抗ニ困難ヲ感スルニ付一万噸級艦船ヲ適當ニ制限シタキ意向ナリト率直ニ告白シ其ノ希望スル処ハ一万噸若ハ八吋砲巡洋艦ニ於テ十五隻七千五百噸六吋砲巡洋艦ニ於テ五十五隻別ニ水雷敷設艦及小型航空母艦ニ於テ五隻總計七十五隻噸數約六十萬噸ナリト説明シタルニ米國側ハ右ハ米國提案ニ二倍スルモノ

ニシテ此ノ如キ拡張ハ會議ノ性質上容認シ難キ所ナリト説キ双方激論アリ我方ハ武裝六吋ハ別トシ将来巡洋艦ノ最大噸數ヲ約八千噸ニ制限スルニ異議ナキ旨ヲ述ヘ併テ本委員会ノ議題ニハ所要噸數兵力等ニ関スル事項ヲ包含セサルヲ以テ之ニ対スル意見ノ開陳ヲ避ケタキ旨ヲ告ケタルニ米國側ハ一万噸級巡洋艦ノ廢止ニハ絶対ニ反對スル旨ヲ宣言シ飽ク迄大型巡洋艦ノ多數ヲ得ントスル底意ヲ有スルヲ思ハシメタリ同時ニ英國側ノ莫大ナル巡洋艦數ノ要求ハ畢竟米國ニ対シ或ル優越ヲ得ムトスル懸引ナランモ兩者ノ間見解ノ差違越ユヘカラサルモノアルヲ暴露セリ

第六節 専門委員会ノ決定事項ニ関シ執レル措置

前來說述セル如ク専門委員会ハ前後八回ニ亘リテ会合シ各種問題ヲ討議シタルカ其ノ結果三國委員間ニ意見ノ一致ヲ見タル諸点ハ之ヲ一括シテ七月八日ノ第三回幹部会ニ提出シタル処同幹部会ニ於テハ各委員ノ注意ニヨリ二三ノ点ニ修正ヲ加フルト共ニ該報告ニ含マル決定事項ハ單ニ暫定的ノ性質ヲ有スルニ過キササル旨ヲ特ニ断リテ報告文全部ヲ即日公表シ右報告ノ内容ニ関スル討議ハ翌日ノ幹部会ニ讓ルコトニ決定セリ然ルニ翌九日ノ第四回幹部会ニ於テハ三

國間意見ノ最モ能ク一致セル免除艦級ニ付テハ直ニ原案是認ニ決定シタルモ巡洋艦級ニ付議論大ニ沸騰シ更ニ驅逐艦及潜水艦ノ問題ニ移ラントスルヤ日米双方ヨリ最重要ナル水上補助艦問題未決ノ儘他ノ問題ヲ議スルモ実益渺ナカルヘシトノ異論アリテ切メテ潜水艦ニ付テナリトモ何等カノ協定ヲ遂ケルコト有利ナラスヤトノ英國側ノ希望モ葬ラレ結局巡洋艦問題ノ決定ヲ俟ツコトナリ從テ上敘専門委員会ノ報告ハ全体トシテ何等會議ニ於テ正式ニ採択セラルルコトナクシテ止ミタリ

因ニ英國側ハ第二回幹部会ニ於テ曩ニ専門委員会ノ討議中潜水艦ノ要求總噸數トシテ拳ケタル七万六千噸乃至八万一千噸ノ數字ハ十一万五千噸程度ニ増加スル必要アルヘキヲ記録ニ留メラレンコトヲ望ム旨聲明ヲ為シ其ノ理由トシテ日米何レモ潜水艦ノ二種別設定ニ同意セサルニ依リ最後ニ合意セラルヘキ總噸數カ全部大ナル攻撃力ヲ有スル潜水艦ニ充テラルコトナキヲ保障セサルニ因ル旨ヲ拳ケタリ右ノ數字ハ我方ヨリ潜水艦七万噸余ヲ要求セルニ対シ其ノ六分ノ十ヲ乗シタルモノトス

第七節 主力艦問題

主力艦ニ関スル制限ハ華盛頓條約ノ既ニ規定スル所ニシテ今次會議ニ於テ当然議題トナルヘキモノニ非ルモ英國全權カ其ノ第一回総會議ニ於テ右ニ関スル提案ヲ為シタルカ為メ本會議ノ議題ノ範圍ニ付多少ノ紛糾ヲ醸シタルコト第二章ニ述ヘタル所ノ如シ

今稍々詳細ニ這般ノ消息ヲ叙セシニ先ツ英全權「ブリジマ」氏ハ六月二十日第一回総會議散會後我方ニ対シ英國提案ノ如ク主力艦ノ噸數ヲ減シ艦齡ヲ延長スルニ於テハ之ヨリ生スル經費ノ節約ハ蓋シ莫大ナルモノアルヘク到底補助艦ノ制限ト同日ノ談ニ非ス同案ハ専ラ此見地ニ立脚シ實ハ米國大統領ノ會議提唱以前ヨリ既ニ考慮シ居タル点ニシテ英國政府トシテハ會議參加承諾ノ当初ヨリ之ヲ提出スルノ企画ヲ有シタル所ナリト陳ヘテ帝國政府ノ態度ニ付与リ聞カムコトヲ求メタリ之ニ対シ我方ハ即座ニ帝國ノ態度ヲ言明シ得ルノ立場ニ在ラス從ツテ同案ヲ支持シ得ルヤ又如何ナル程度迄支持シ得ルヤ等ノ点ハ政府ノ訓令ヲ俟タサルヲ得サルモ何レニセヨ正面ヨリ之ニ反對スルモノニ非ルコトヲ承知セラレタキ旨ヲ答ヘタルカ一方米國側ハ英國提案ニ対シ強硬ナル反対意見ヲ持シ同國全權「ギブソン」氏ハ六

月二十二日来訪ノ際主力艦ノ問題ハ日英米及仏伊ノ間ニ協定セラレタル所ニシテ仏伊兩國ノ公式ニ参加セサル今回ノ會議ニ於テ華府條約ノ變更ヲ来スカ如キコトヲ為スハ甚タ面白カラサル義ナリト陳ヘ更ニ一九三一年迄ニハ科学ノ進歩、特ニ飛行機ノ發達カ如何ナル程度ニ達スルヤモ計ラレサル今日遽ニ主力艦ノ噸数及其ノ備砲ヲ縮小スルカ如キ案ニハ到底同意ノ限ニ非ストノ意ヲ通シタリ此ノ如ク本問題ノ上議ハ既ニ英米間見解ノ相違ノ魁ヲ為シタルカ六月二十四日ノ第二回（非公式）幹部会ニ於テ英国全權ハ正式ニ主力艦ニ關スル提議ニ言及シ本件ヲ總會ニ持出ス前ニ現在存スル意見ノ相違ヲ調和センカ為成ル可ク速ニ非公式ノ委員會又ハ其他ノ委員會ニ於テ論議センコトヲ希望シ本問題ニ入ルヘキ最上ノ方法ニ關スル各國全權ノ意向ヲ承知シタキ旨ヲ陳フルニ至レリ之ニ對シ米國全權ハ華府ニ於テ作成セラレタル訓令ハ本件論議ヲ予想セサリシモノニ付英国提案ニ對スル本國政府ノ訓令接到ヲ俟ツテ本件ヲ論議スルコト遙ニ適當ナル旨ヲ開陳シ我方亦委任狀ノ文言ニ依レハ日本全權ハ海軍軍備制限ニ關スル如何ナル問題ヲモ議スルノ權限ヲ付与セラレ居ルモ其ノ有スル訓令ハ差向キ巡洋艦驅逐

細目ハ別トシ主力艦問題ヲ上程シテ三国間ニ或程度ノ協定ヲ遂ケ置クヲ以テ我実狀ニ徴シテモ亦有利ナリト認ムルト共ニ唯本問題ノ論議ヲ先ニスルカ為延テ本會議ノ主要目的タル補助艦制限協定ヲ不成立ニ終ラシムルカ如キコトアリテハ遺憾ナルヲ以テ之カ上議ヲ補助艦問題議了後ニ議ルヘシト云フニ在リ依ツテ我方ハ右帝國政府ノ意ヲ奉シ此点ニ關スル英米間見解ノ相違ヲ調和スルニ努力シ先ツ六月二十七日「ギブソン」全權ヲ往訪シテ我方ノ態度ヲ内話スル所アリタルカ同全權ハ其ノ接受セル本國政府ヨリノ新訓令ニ依リ華盛頓條約決定事項ニ一切手ヲ触ルヘカラサル地位ニアリ旨ヲ語リ容易ニ所見ヲ翻スヘクモ見エサリシカ此間予テ米國側ノ主張タル英米補助艦均等勢力ノ要求ニ對シ英国側ニ於テ何等異議ナキ旨ヲ言明スルアリ之カ為米國側ニ於テ其ノ主力艦上議ニ對スル從來ノ反對ヲ幾分緩和シタルモノノ如ク七月八日ノ第三回幹部会ニ於テ我方ヨリ前頭帝國政府訓令ノ趣旨ヲ陳述スルヤ米國側モ同シク本件ニ關シ訓令アリタリトテ大体米國政府ハ何等決定的協定ヲ遂クルニ非スシテ非公式ノ討議ニ依リ来ルヘキ一九三一年會議ノ準備的事項ヲ議スル意味ニ於テ主力艦問題ヲ上議スルニ異議ナ

艦及潜水艦ニ關スル問題ニ限ラレ居ルカ故ニ米國全權同様政府ニ請訓スルノ要アル旨ヲ陳ヘ新訓令接到迄本問題ノ論議ヲ延期センコトヲ求メ結局延期トナリタリ然レトモ米國側ハ依然トシテ本件ヲ問題外トシテ葬リ去ラムトノ底意ヲ有スルカ如ク之ニ反シ英国側ハ飽ク迄之ヲ上議セムトノ立場ヲ固持シ若シ本問題ニシテ不問ニ葬リ去ラルルカ如キコトアラハ之ヲ公開ノ席ニ於テ論スルノ權利ヲ留保セサルヲ得サルヘク本件論議ヲ為サスシテハ帰國スルコト能ハサル地位ニアリトノ意ヲ我方ニ伝ヘテ其ノ態度頗ル強硬ナルモノアルヲ示シタリ

顧フニ本問題ノ上議ハ其ノ協定ノ形式如何ニ依リテハ華盛頓條約トノ關係上法律問題トシテハ多少ノ議論ヲ生スル余地アルヘシト雖事實問題トシテハ英国案ハ國費節約ノ有効ナル手段タルニ鑑ミ米國力之ニ正面ヨリ反對ストセハ世界ノ輿論ニ對シ頗ル苦境ニ陥ラサルヲ得サル可ク帝國トシテハ暫ク形式論ヲ不問ニ付シ英国案ニ付審議スルニ異存ナシトノ態度ヲ採ルニ於テハ世界公論ニ對シ極メテ有利ナル地位ニ立得ヘキモノト信セラレタリ帝國政府ノ本問題ニ關スル訓令ハ仍テ此ノ見地ニ立脚シタルモノニシテ英国提案ノ

キ旨ヲ声明スルニ至レリ

此ノ如クニシテ本件上議ノ問題ハ一先ツ落着シタルノ觀アリシカ英国側ハ尚之ヲ以テ満足セス縱令他ノ問題ニ付完全ナル協定成ラストスルモ今次會議中主力艦制限問題ヲ提起セサルコトヲ約スルモノニ非ラサル旨ヲ留保シタルカ主要問題タル補助艦制限ニ關シ會議不調ニ終リタル結果本件英國提案ハ結局何等ノ論議ヲ見ルニ至ラスシテ止ミタリ

第七章 米國新提案ト我方ノ対策

前來說述スル所ニ依リ明カナル如ク巡洋艦問題ニ關スル英米間ノ論争ハ米國側ニ於テ總噸数ニ關スル当初ノ提案ニ多大ノ修正ヲ加ヘ英国側ノ要求スル隻數ヲ滿タスニ略ホ近キ數字ヲ諾スルニ非サル限り容易ニ調和シ得ヘキ処ノモノニ非スト認メラレタル処七月五日ノ第八回專門委員會ニ於テ英国側ヨリ英米兩案ノ調和ニ付攻究ヲ重ネタル結果結局單艦ノ噸数ヲ削減スル外妥協ノ途ナシト云フニ帰着シタルカ之ニ對スル日米ノ意見如何ト切り出シタルニ對シ米國委員ハ意外ニモ大要左ノ如キ声明ヲ為シタリ

一、米國委員ハ一九三六年十二月三十一日ニ至ル期間ヲ目途トシ巡洋艦勢力四十萬噸以上ニテハ討議ヲ行フコ

ト能ハス

二、右期間ニ対シ米国ハ一万噸型総計二十五隻迄建造シ得ルノ自由ヲ要求シ同時ニ他ノ諸国ニ対シテハ華府条約ノ原則ニ依レル合計噸數(註五、五、三比率ヲ指スモノナラン)迄同種艦建造ノ權利ヲ認メントス

三、右ノ期間「オマハ」級ニ関シテハ亡失ノ場合ノ外之ヲ代換スルノ意図ナシ

四、一九三六年以後ニ対シテハ完全ナル行動ノ自由ヲ保留スルモ大型巡洋艦隻數制限ニ関スル英國ノ所見ニ合センカ為右ノ期間ニ対シテハ制限噸數四十萬噸ノ範圍内ニ於テスル限リ前記一万噸型以外ノ新建造ヲ協定サルヘキ小型巡洋艦ノミトナスコトニ同意ス

五、小型巡洋艦ニ対シ大型ノモノト異ル砲ノ口径ノ制限ヲナスノ必要ヲ認メス

協定期間ニ対シ小型巡洋艦ノ協定ナリタル場合ニ於テハ其ノ計画及兵装ハ全然各國ノ自由ニ委セラルヘシ
六、前述セル米国ノ政策ハ英國ノ所見ニ合センカ為米国ノ為シ得ル最大ノ努力ト看做サルヘキモノナリ米國トシテハ協定噸數範圍内及巡洋艦性能ニ関スル華府条約

為シタル事情ヲ説明スルト共ニ該聲明ニ拘ラス其ノ真意ハ出来得ル限リ噸數削減ニ在ルカ故ニ我方ヨリ遠慮ナク批評セラレ度シト迄申シ出ルアリ斯クテ各國全權間ニ未タ協議ニ入サル間ニ問題ハ早クモ委員會ニ於テ行詰リトナリタルカ故ニ全權間ノ内協議ヲ必要ト認ムルニ拘ラス米國全權ハ英國全權ノ許ニ赴クヲ喜ハス英國全權亦米國ニ対シ此ノ際屈從ノ態度ヲ示スヲ欲セス内協議會ハ日本全權ノ許ニ行フヲ便宜トスルノ形勢トナレル様觀察セラレタルカ翻ツテ我方ノ立場ヲ按スルニ從來我委員ハ専門委員會ニ於テハ比率論ニ論及スルコト及我補助艦所要噸數ヲ明示スルコトヲ避ケ専ラ英米ノ論争ニ委セ兩國ノ保有セントスル兵力ヲ見定メタル上之ヲ發表セント企テ来リタル処今ヤ我所要噸數ヲ言明スルノ時機到達セリト認メラル折柄ナリシト共ニ右米國新提案ニシテ万一容認セラルルカ如キ場合ニハ現有勢力以上ニ軍備ノ拡張ヲ阻止セムトスル我根本方針ニ背馳スルノ結果トナルヘキニ鑑ミ此際我方ヨリ各國ノ保有シ得ヘキ最大総噸數ヲ明示セル案ヲ提出スルニ如カスト認メラレタリ

此ニ於テ我方ハ次回幹部會ニ於テ聲明セントシタル我態度

ノ規定ノ範圍内ニ於テハ各國ニ全然行動ノ自由ヲ与ヘンコトヲ大ニ欲スルモノナリ

七、米國ノ原案ハ巡洋艦級協定噸數トシテ二十五万乃至三十万噸ヲ提示セリ巡洋艦噸數ハ四十万噸ヨリモ遙カニ低キ數字ニ於テ協定サレンコトハ米國ノ依然トシテ熱望スル処ナリ蓋シ斯ノ如クシテ始メテ軍備制限ニ大ナル貢獻ヲ為シ得ヘケレハナリ若シ四十万噸ヨリ相当低キ數字ニテ協定可能ナラハ第二項大型巡洋艦ニ対スル米國ノ要求ハ之ヲ縮少スルコトヲ得ヘシ

八、巡洋艦噸數四十万噸以上ヲ基礎トスル制限ハ制限ノ実効ナキモノニシテ目下斯ノ如キ条約ヲ締結スルノ正当ナル理由ナシ

右米國新提案ヲ要約セハ米國側ハ巡洋艦ニ付三十万噸ヲ最大限トセムトスル当初ノ案二十万噸ノ譲歩ヲ加ヘ四十万噸ヲ限度トシテ討論スルヲ辞セサルト同時ニ同噸數ヲ超ユルノ結果ヲ来スカ如キ如何ナル案ニモ考慮ヲ加フルノ意ナキヲ示スニ在ル処英國側ハ之ヲ以テ最後通牒ニ外ナラスト認メ之ニ對抗スル案ニ付我方ニ會見ヲ求メ内協議ヲ企ツルアリ一方米國側ハ日英特ニ日本ニ予告セシテ前記ノ聲明ヲ

ヲ我方ニ於テ催スヘキ上述内協議會ニ繰上ケ持出スコトニ決シ仏伊傍聴者ノ出席ヲ避ケタキ英國側ノ希望ヲ斟酌シ六日午後極メテ非公式ナル三国全權ノミノ内協議會ヲ開キ席上我方ヨリ大要左ノ提案ヲ披露シ且之ヲ次回幹部會ノ記錄ニ留ムトノ意ナル旨ヲ述ヘタリ

「日本全權ハ当初ヨリ現有勢力ニ重キヲ置キ之ヲ基礎トシテ割当噸數ヲ決定スヘキコトヲ提議セルカ右我方ノ標準ニ基キ英國ノ補助艦勢力ヲ算定スルトキハ四十七万二千噸ニ達スヘク而シテ米國提案ハ水上補助艦総噸數ヲ英米各四十五万乃至五十五万噸ト為スヘキヲ提議セリ吾人今回會議ノ目的ハ軍備ヲ制限スルニ在ルカ故ニ日本全權ハ右米國提議ノ最低數字ヲ討議ノ基礎トスルヲ以テ會議ノ目的達成ノ捷徑タルヘキヲ信ス右英米各四十五万噸ヲ基礎トスル場合日本ハ三十万噸余(somewhat above 300,000)ヲ要求セムトスルモノナリ而シテ別ニ潜水艦ニ付テハ日本ハ七万噸(around 70,000)見当ヲ求メムトス」
本提案ニ対シ米國側ハ総噸數ヲ出来得ル限リ削減スルコト米國案本来ノ趣旨ナルニ依リ之ヲ討議ノ基礎トスルニ賛意ヲ表スルモノナル旨ヲ述ヘタルニ英國ハ先ツ「ブリッヂマ

ン」全権ヨリ実ハ米国側ノ巡洋艦四十万噸案ニ対シテスラ到底之ヲ諾スルコト困難ナル位ナルニ巡洋艦、駆逐艦双方ヲ合シ四十五万噸ニ削減セムトスル日本案ニ從ヘハ英國ハ驅逐艦所要噸數二十二万噸ヲ差引クニ於テハ巡洋艦僅カニ二十三万噸ヲ保有シ得ルニ過キサコトナルヘク此ノ如キハ英國ヲ甚タ困難ナル地位ニ置クモノナル旨ヲ述ヘ次ニ「フィールド」全権ヨリ巡洋艦ヲ四十万噸以下ニ削減スルトキハ今後十年間全然建造ヲ中止スルコトナリ造艦技術ノ頽廢ヲ来スヘク英國ノ忍ビ難キ処ナリ此上ハ総噸數ノ問題ヲ難レ一九三六年ニ至ル毎年ノ造艦計画ニ関シ三國間ニ適當ナル協定ヲ結フコト一法ナランカト思考スル旨ヲ述ヘ更ニ「ブリッヂマン」全権ヨリ再ビ巡洋艦齡ニ関シ仮リニ三國共二十年ヲ採用ストシ二十年以上ノ老齡艦ハ沿岸防禦等ノ用途ニ限り若干年間之カ保有ヲ許スコトシ以テ多少ノ融通ヲ得ルノ案ニ付研究ヲ試ミタキ旨ヲ開陳シタルカ要スルニ英國側ノ態度ハ巡洋艦四十万噸スラ極メテ困難ニシテ駆逐艦ト併セ四十五万噸ハ到底問題ニナラスト云フニ帰スルモノノ如シ

依テ我方ハ吾人カ今回ノ會議ニ参加セル所以ハ海軍々備ノ

ニ対シ英國側ハ右提案中英國補助艦力ニ關スル部分ハ日本ノ標準ニ基ケルモノニシテ英國ノ採用スル代換年齡ニ從フトキハ六十余万噸トナルヘシトテ一ノ「メモランダム」ヲ我方提案ト共ニ記録ニ留メムコトヲ求メ米国全権ハ我方提案ハ米国側ノ全然賛同スル所ニシテ同案ノ根本原則カ討議ノ基礎トシテ採用セラレムコトヲ切望スル旨ヲ陳ヘタリ翌九日ノ第四回幹部会ニ於テ専門委員會報告ノ討議ニ當リ米国全権ハ日英ノ懸隔セル兩案ノ接近ヲ図ルニ非スンハ討議ハ不可能ナル処米国側ハ直ニ日本案ヲ以テ可ナリト認ムルモノナリト陳ヘタルヲ以テ我方ハ之ニ對スル英國側ノ意向ヲ訊シタルニ英國全権ハ日米兩國カ其ノ割當噸數ヲ以テ如何ナル種類ノ艦船ヲ造ラムト欲スルカヲ知ルニ非スンハ割當噸數ニ付予メ何等束縛ヲ受クルヲ好マス英國ノ欲スル所ハ國防ノ安全ニ存シ從テ隻數ハ其ノ最モ重キヲ置ク所ナリト断シタリ依テ我方ハ總噸數ヲ出來得ル限り低下スルコトニ付テハ何レモ異存ナク唯巡洋艦ノ特殊ナル使命ニ鑑ミ艦數ノ多キヲ欲スルモノアリトセハ問題解決ノ途ハ大艦ノ數ヲ限ルノ外ナカルヘシトテ一万噸巡洋艦ヲ英米各十隻日本七隻ト為サムコトヲ改メテ提言スルト共ニ老齡艦ヲ總噸

制限ヲ實行セムトスルニ在ルト共ニ今次會議ニ當リ日本朝野ハ華盛頓會議ノ夫ニ比シ多少有利ナル比率ヲ求メムトスルモノナルヲ以テ若シ英米兩國ニシテ水上補助艦四十五万噸以上ヲ要求スルニ於テハ我方ハ現在以上造艦ノ必要ヲ生スヘク吾人ハ斯クノ如キ協定ヲ提ケテ帰國スルコト能ハス事茲ニ至ラハ我方ハ不本意ナカラ競争場裡ヨリ退キテ傍觀者ノ地位ニ立タサルヘカラスト説キタルニ米国側ハ頻リニ肯キタルニ反シ英國側ハ徒ラニ造艦計画ニ依ル制限案ヲ繰返スニ過キサリキ茲ニ於テ我方ヨリ全ク素人的個人ノ考案ナル旨断ハリタル上例ヘハ英米各一万噸級巡洋艦數ヲ十隻ト限リ日本亦七隻ニ限リ其ノ残余ノ噸數ヲ小型巡洋艦ニ振り向クルコトトセハ此ニ總噸數ニ於テ著シキ削減ヲ見始メテ我方案ニ近ツクコトヲ得ヘシト陳ヘタルニ案外ニモ「フィールド」全権ハ右案ナラハ米国案ノ二十五隻ニ比シ却テ英國ノ主張タル十五隻ニ近シト答ヘタルカ其以上ノ批評ハ英米共ニ之ヲ控ヘタリ

此ノ如クニシテ同日ハ何等問題ニ實質的ノ歩ヲ進ムルコトナク終リタルカ翌々八日ノ第三回幹部会ニ於テ我方ヨリ前頭提案ニ多少ノ説明ヲ加ヘテ改メテ幹部会ニ提出シタリ之

數ヨリ除外シテ沿岸防禦其ノ他ノ用途ニ充テムトノ「ブリッヂマン」全権ノ説ニハ我方ニ於テ好意的考察ヲ加ヘムトスルモノニシテ此等ノ基礎ノ下ニ問題解決ニ一歩ヲ進メ得サルヘキヤト説キタルニ英國側ハ直チニ賛意ヲ表シタルモ米国側ハ先ツ割當總噸數ヲ知り而シテ日英兩國カ之ヲ如何ニ利用スルカヲ知ルニ非スンハ米国ノ立場ニ付明答シ難ク一万噸級巡洋艦幾隻ヲ要スルヤハ總噸數ヲ知リタル上始メテ決定シ得ヘキ問題ナリト酬ヒ此ノ点ニ付英米間ニ激論交サレ會議ノ前途容易ニ樂觀ヲ許ササルモノアルヲ思ハシメタリ

第八章 第二回總會前後ノ狀勢

前章叙述ノ如キ形勢ノ下ニ在リナカラ英國側ハ八日ノ幹部会ニ於テ十一日ヲ以テ第二回總會ヲ開キ各國各改メテ其ノ立場ヲ声明シタリト提議シ我方ハ未タ特ニ總會ニ於テ報告スル程ノ事項モ無キ實狀ノ下ニ於テ之ヲ開クコトハ會議ノ成功ニ貢獻スル所尠カルヘキ旨ヲ注意シタルモ英國側ハ遮ニ無ニ總會ヲ主張シ米国側ハ一旦我方ノ注意ヲ尤トシ輕々シク總會ヲ開クハ宜シカルマシト陳ヘタルモ終ニ強テ反対ナキ旨ヲ答ヘタル結果兎角一応同日開會ノコト

トナリ翌九日ノ幹部会ニ於テ遂ニ之ニ決定セリ
然ルニ此ノ間水上補助艦問題ニ関シ前來縷述ノ如ク事態ノ漸ク悪化スルアリテ此儘総会議ヲ開クニ於テハ會議ノ決裂ヲ誘致スルノ虞ナシトセサル形勢ニ立至リタルト共ニ英本國政府ヨリノ注意モアリタルモノノ如ク英國側ヨリ改メテ右延期方申出アリ右ニ對シテハ日米双方ニ於テ格別異議ナカリシカ會々本國ニ歸國中ナリシ愛蘭自由國代表ノ暗殺事件伝ハルト共ニ弔意ヲ表スル意味ニ於テ米國全權ノ提議ニ依リ總會議ノ開催ハ兎モ角暫ク延期セラルコトナレリ此ノ間我方ハ會議ノ決裂ヲ未然ニ防止スルカ為アラユル機會ヲ捉ヘテ英米間ノ調停ニ努力スルト共ニ苟モ軍備ノ拡張トナルカ如キ提案ノ到底我方ニ於テ承認シ得サル所以ヲ力説スルニ努メタルカ十三日開カレタル私的全權懇談會ノ席上我方ヨリ更ニ水上補助艦ニ付キ三國ノ現ニ有シ又ハ有スヘキ勢力ニ一律三割ノ削減ヲ加ヘ以テ各國ノ保有シ得ヘキ總噸數ヲ英國四十八萬四千噸、米國四十五萬四千噸、日本三十一萬噸ニ制限セムコトヲ提案シ右ハ過般ノ我方提案ト全然同精神ニ出ツルモノナルコトヲ説明シタルニ米國側ハ熱心ニ之ニ賛意ヲ表シタルモ英國側ハ三割減ヲ二割減ニ

トシ之ニ對スル五、五、三ノ比例ニテ英國ニ五十三萬三千噸ヲ与フルコトヲ得サルヘキヤト申出テタリ之ニ對シ我方ハ五千噸ノ増加ハ一見甚タ僅少ナルニ似タレトモ右ハ當ニ勢力増加ヲ排スル我根本主義ニ背馳スルノミナラス五、五、三ノ比例ハ我國論ニ鑑ミ到底我政府ノ承諾シ得サル所ナリト酬ヒタルニ「ブリジマン」全權ハ再び日本ハ大型巡洋艦ニ於テ六割以上ノ比率ヲ得尚現ニ有スル八吋砲巡洋艦ニ於テ有利ナル協定ヲ得ル次第ナルヲ以テ此辺ニテ折合ハムコトヲ迫リ押問答ヲ重ネタルカ我方ヨリ試ミニ我方ノ噸數ヲ依然三十一萬五千噸トシ之ニ對スル英國ノ噸數ヲ五十二萬五千噸トシ一方ニ於テ潜水艦ヲ日英共ニ七萬噸トスレハ水上補助艦及潜水艦通算シテノ比率六割五分見当トナルヘク此ノ案ナラハ考慮ヲ加フルノ余地アルヘキヲ以テシタルニ「ブリジマン」全權ハ潜水艦ノ同率ニ對シ反對ヲ為サス其ノ基礎ニ於テ先方「フィールド」全權当方小林委員ヲ加ヘ重ネテ談合シタキ旨ヲ陳ヘテ右會談ヲ終レリ

第九章 日英妥協案ノ成立ト其ノ効果

茲ニ於テ十五日先ツ小林委員「フィールド」全權ト會見シ日英妥協案ニ付考究スル所アリ我方委員ハ昨十四日我方ノ

引下ケムコトヲ要求シ我方之ニ反對シタル為竟ニ何等ノ進捗ヲ見ルニ至ラス更ニ討議ヲ後日ニ譲ルコトシタルカ總會議ノ開催ニ付テハ之ヲ十四日ト為スト共ニ各國全權トモ該會議ニ於テハ努メテ論争の口調ヲ避クヘキコトニ申合セ成レリ

此ノ如クニシテ第二回總會議ハ幾多ノ迂余曲折ヲ經テ同日開カレタルカ三國全權トモ各其ノ立場及主張ノ理由ヲ陳述シテ何レモ誠意會議ノ成功ヲ希望スルモノナルコトヲ声明シテ事無ク散會シタルカ散會後「ブリジマン」全權ハ我方ヲ來訪シ米國全權ノ演說中日英兩國ニ執リ承諾シ得ヘキ或基礎ノ発見セラルアラハ米國ハ之ニ賛成シテ完全ナル妥協ニ達シ得ヘシトノ一節アルヲ引用シ此ノ一節ノ裏ニハ商議決裂ノ場合其ノ責任ヲ日英間ノ不調ニ歸セシムルノ伏線アルモノト認メラレサルニ非サルモ兎モ角日英間ニ妥協点ヲ見出し得ハ右一節ヲ楯ニ取り米國ヲシテ之ニ参加セシメ得ルコトトナルヘシト前提シ今ヤ時局ノ切迫ニ鑑ミ腹藏ナク意見ノ交換ヲ為スヘキ時機ト考ヘラルル処日本カ三十一萬五千噸ヲ最大限トシテ一步モ之ヲ譲リ得ストアリテハ解決極メテ困難ナルヲ以テ切メテ五千噸ヲ増シテ三十二萬噸

提言ニ依レハ水上補助艦比率六割トナリ到底政府ノ承認ヲ得ルコト困難ナル事情ヲ説明シ之カ取消ヲ求ム英國側ハ（一）一萬噸巡洋艦ヲ十二對八トスルコト（二）其ノ他ノ巡洋艦ハ基準排水量六千噸砲裝六吋ヲ超ヘサルコト（三）艦齡ニ達シタル老巡洋艦ハ總噸數ノ二割五分迄ヲ保有シ得ルコトノ三條件ヲ承諾セラルルニ於テハ本國政府ニ對シ水上補助艦總噸數ヲ五十萬噸迄減スルコトヲ請訓シ得ヘク此ノ場合日本カ一萬噸ヲ増加シ三十二萬五千噸トスルニ異存ナシト申出テ尚潜水艦ニ付テハ七萬噸ハ稍過大ト認メラルルカ故ニ日英共六萬噸トセムコトヲ提言セリ之ニ對シ小林委員ハ（一）ハ米國力之ヲ承諾スルニ於テハ我方ニ於テモ異議ナカルヘク（二）ハ八吋砲ニ關シ將來無期間ニ禁制セラルルコトハ主義トシテ反對ナルモ實際ニ於テハ日本海軍ハ一九三六年迄八吋砲巡洋艦ヲ建造スルノ余地ナキカ故ニ英國ハ此ノ事實ニ鑑ミ満足シ得ラルヘシト答ヘ尚潜水艦ニ付テハ七萬噸ヲ低下スルコトハ絶対ニ不可能ナル旨ヲ述ヘ其ノ他ノ數字ニ付テハ事何レモ重大ナルヲ以テ即答ヲ与ヘスシテ立別レタリ

翌十六日「ブリヂマン」全權ハ右小林「フィールド」間談

話ノ要領ヲ覺書ノ形ニ書キ下シ之ニ我カ方ノ署名ヲ求メ来リタルカ右覺書ニハ前頭三項ノ外英國ノ巡洋艦「ヨーク」及「ホーキンス」級四隻日本古鷹級四隻ハ米國カ「オマハ」級十隻ノ巡洋艦ヲ廢棄スルニ同意スルヲ条件トシテ一九四五年以前ニ廢棄スルコト並ニ水上補助艦總噸數内ニ於テ巡洋艦及驅逐艦ノ比率ヲ協定スルコトノ二項ヲ附加シタリ之ニ對シ我カ方ハ此ノ際日英間ニ署名サレタル文書ヲ作り之ヲ米國側ニ示シテ其ノ同意ヲ求ムルカ如キ形ヲ執ルニ於テハ米國側ニ對シ必スヤ日英協同シテ米國側ニ迫ルモノトノ感想ヲ与フヘク其ノ結果ハ延イテ會議ノ運命ニ由々數影響ヲ及ホスコトナキヲ保セス旁々米國側ニ示スヘキ案ハ須ク概括的且出來得ル限り協定ノ形式ヲ備ヘサルモノタラサルヘカラサル旨ヲ說キタルニ英國側遂ニ之ニ賛成シ次回全權懇談會ニ提出スヘキ案ハ我方ノ用意セル一ツ書ノ形式ニ依ルヘキコトニ決定セリ其ノ内容左ノ如シ

一、水上補助艦總噸數ニ對シ（イ）小林ノ申出シタル數字ハ英四十八萬四千噸ニ對シ日三十一萬五千噸（ロ）「フイールド」ノ提出シタル數字ハ英五十萬噸ニ對シ日三十二萬五千噸

ルニ過キササルモノナリ右ノ次第ハ篤ト之ヲ英國側ニ説明シタルニ英國側ハ大イニ我方ノ努力ヲ多トシ此ノ趣旨ニ依リ該一ツ書ヲ以テ三国全權懇談會ノ論題トスヘキ旨ヲ約セリ斯クテ十八日ノ全權懇談會ニ於テ我方ヨリ右一ツ書ヲ配付シ潜水艦一萬噸ヲ水上補助艦總噸數ニ轉換スルコトニ依リ我カ水上補助艦總噸數ヲ三十二萬五千噸ト為スヲ以テ満足シ得ル次第ヲ説明シ英國側ヨリ我方ノ好意ニ對シ謝意ヲ表スル所アリ當日ハ米國側ノ質問ニ応答シタル上本案ニ關スル米國側ノ研究ヲ俟チ更ニ審議ヲ次回ニ譲ルコトトシテ散會シタルカ翌十九日引續キ開カレタル懇談會ニ於テ劈頭米國全權ハ日英妥協案第一項ハ總噸數ヲ五十萬噸ト定ムルモ第二項ニ於テ二割五分ノ老齡艦保有ヲ認メ而モ其ノ老齡艦ナルモノカ十六年ヲ過キタル許リノモノヲ含ムトセハ事實ハ總噸數ヲ六十二萬五千噸トスルト大差ナキニ至ルヘク斯クテハ世人ハ此ノ兩項ヲ通覽シテ五十萬噸ハ一ノ「カムフラージ」ト見ルヤモ知レス寧ろ第一項ニ其ノ全噸數ヲ掲クル事實ニ近キニ非サト說キ之ニ對シ英國側ハ日本ノ強キ主張ノ前ニ止ムヲ得ス五十萬噸ニ下リ来リタルモ右ハ非常ナル犠牲ヲ意味スルモノナルコトヲ説明シ我方亦艦齡ノ間

二、總噸數ニ割五分ニ當ル老齡艦使用
三、一萬噸級巡洋艦ハ英米十二隻ニ對シ日八隻
四、英ノ「ヨーク」及「ホーキンス」級四隻米「オマハ」級十隻日古鷹級四隻ハ保有スルコト

五、八吋砲巡洋艦ノ問題ニ關シテハ日本ハ一九三六年末迄他ノ八吋砲巡洋艦ヲ建造スルノ意思ナシ

六、巡洋艦及驅逐艦ノ最大百分率ヲ協定スルコト

七、潜水艦ニ關シ（イ）小林ハ日本七萬噸ヲ要スト陳フ

（ロ）「フイールド」ハ三国共ニ六萬噸ヲ提言ス

右妥協案ニ依レハ我方ノ保有シ得ヘキ水上補助艦總噸數ハ三十二萬五千噸トナリ其ノ当初ノ主張タル三十一萬五千噸ニ對シ一萬噸ノ増加トナル処右三十二萬五千噸ハ英國側總噸數ヲ低下セシムル關係上我方ニ於テ何等カノ調節方法ニ依リ之ニ同意ヲ与フルノ措置ニ出ツルノ万止ムヲ得サルモノアリタルニ基ク次第ニシテ右調節方法トシテハ我方ニ於テ百方考慮ノ結果潜水艦ニ付英國側ヨリ提議セル我噸數一萬噸削減說ヲ採スルコトニ對シテ其ノ一萬噸ヲ水上補助艦總噸數ニ繰入ルルコトトシタルモノニ對シテ即チ我保有スヘキ總噸數ニハ何等増減ナク単ニ水中ノ一萬噸ヲ水上ニ移シタ

題ハ如何ニ定マルトモ其ノ定マリタル艦齡ハ華府條約以後ノ建造ニ係ル艦船ニ適用セラルヘキコトハ専門委員會ニ於テ既ニ一致シタル所ト記憶スルカ故ニ老齡艦保有ノ件ハ自然大戰以前ノ建造ニ係リ大戰ノ苦役ヲ務メタルモノニ適用セラルヘキモノト信シ此種ノ艦船ニシテ十六年ヲ超ヘタルモノヲ別ニ保有スルコトニ對シテハ我方ニ於テ異議ナキ所ニシテ斯カル老齡艦ノ保有ハ有効艦ヲ以テ律スヘキニ非スト思考スルニ付世人之ヲ「カムフラージ」ト認ムルハ當ラス若シ果シテ真ニ「カムフラージ」ノ嫌アリタリトセハ我方ハ到底同意シ能ハサリシ所ナリト陳ヘタリ次テ八吋砲巡洋艦ニ付英米間ニ論争アリ米國側ハ英國側ニ於テ米國カ莫大ナル八吋砲巡洋艦ヲ建造スルニ至ラムコトヲ憂フルハ全ク杞憂ニ属スヘシト雖モ本巡洋艦ニ關シ其ノ自由ヲ束縛スルノ協定ニハ上院ニ於ケル批准拒絕ノ可能明白ナル鑑ミ到底調印シ得サル旨ヲ縷述シ英國側亦其ノ食糧品ノ輸入カ巡洋艦保護ノ下ニ行ハルルノ事實ヲ指摘シテ他國カ英國ニ優ル八吋砲巡洋艦ヲ建造スルヲ看過シ得サル所以ヲ力說セリ我方ハ本問題ニ付テハ姑ク意見ノ開陳ヲ差控ヘタルニ英國側ノ要求切ナリシニ依リ私見トシテ一萬噸級ハ別トシテ日

本ハ古鷹級四隻ノ八吋砲艦ヲ有シ英國ハ「ヨーク」ハ勿論七、五吋ヲ有スル「ホーキンス」級四隻アルニ対シ米國ハ此種ノ巡洋艦ヲ有セサルカ故ニ三國ヲ通覽シテ現状ノ儘ト為スハ公正ヲ欠クノ觀アリ故ニ米國カ此種巡洋艦若干ヲ造ラムト欲スルハ能ク了解シ得ヘキ所ナリト陳ヘタルニ「ブリジマン」全權ハ稍躊躇ノ後米國カ「ヨーク」ニ相当スヘキ八吋砲巡洋艦一隻ヲ造ルニ止マラハ政府ニ請訓スルノ余地アルモ若シ其ノ二隻ヲ造ラムトスルニ於テハ英國トシテハ止ムナク其ノ第二ノ大巡洋艦ニ相当スル噸數ヲ其ノ英國側總噸數ノ上ニ追加スルヲ求メサルヲ得スト主張セリ此ノ時米國側ハ英國ノ抱懷セル八吋砲巡洋艦建造ニ對スル懸念ヲ緩和スルノ趣旨ノ下ニ三國ノ或ルモノカ大巡洋艦ヲ続々建造スル場合之カ為脅威ヲ感スル國ハ直ニ三國會議ノ召集ヲ求メ得ルコトトシ且同會議ニ於テ議經ラサレハ本條約ヲ無効トス云々ノ一項ヲ設ケムコトトヲ提言シ「ブリジマン」全權之ヲ喜ハサル態ナリシカ「セシル」卿ハ之ニ依リテ談判破裂ヲ防キ得トセハ猶破裂ニ優ルコト万々ナルヘシトテ即座ニ案文ヲ起セルカ其ノ要旨ハ

「締約國ハ此ノ際本條約第何条ニ規定セラレタルモノノ

隻（最後ノ場合ニハ三隻迄ノ覺悟アルカ如シ）ノ建造ヲ許シ（二）噸數問題ニ付水上及潜水艦ヲ一括シテ英國ヲ五十九萬噸トシ日本ヲ三十八萬五千噸トストノ二点ヲ新規ノ案トス右（二）ニ関シ我方ヨリ英國ノ補助艦總噸數ハ五十六萬トナル筈ナラスヤト注意シタルニ「ブリジマン」全權ハ委細書面ニ讓ルヘシトテ即答ヲ避ケタリ同日引續キ英國側ノ希望ニ依リ全權懇談會ヲ開催シタルカ席上英國全權ハ其ノ新タニ帶有セル訓令ニ從ヒ一九三六年迄ノ暫定取極作成ノ目的ヲ以テ曩ニ日本側ヨリ懇談會ニ提出セル一ツ書ニ付討議ヲ繼續セムコトヲ申出テ大要左記ノ提案ヲ披露セリ

一、代艦年齡以内ニ於ケル巡洋艦驅逐艦及潜水艦ノ合計總噸數ハ英米各々五十九萬噸日本三十八萬五千噸
二、更ニ各國ハ第一項所定ノ總噸數ノ二割五分ノ艦齡超過艦船ヲ保有スルコトヲ得

三、代換年齡左ノ如シ

一万噸巡洋艦十八年其ノ他ノ巡洋艦十六年驅逐艦十六年潜水艦十三年

四、六千噸以上ノ左記艦船ハ之ヲ保有スルコトヲ得

英國七、五吋砲「ホーキンス」級四隻八吋砲「ヨーク」

外六千噸以上ノ噸數ヲ有シ又ハ六吋以上ノ砲ヲ搭載スル巡洋艦ヲ一九三六年末以前ニ起工スルノ意思ヲ予見セサルコトヲ宣言ス若シ締約國ノ或モノカ斯ル意思ヲ有スルニ至ラハ直チニ其ノ意思ヲ他ノ二國ニ通告スヘク右通告ヲ受ケタル國ハ何レモ直ニ會議ノ開會ヲ要求シ得ヘク而シテ同會議ニ於テ討議ノ後妥協ニ至ラサレハ本條約ハ茲ニ消滅ニ歸スヘシ」

ト云フニ在リ

右案ハ他ノ問題ト合セテ各國ニ於テ研究シ次回幹部會ニ於テ更ニ審議ヲ続行スルコトトセリ

第十章 英國全權ノ歸國ト其ノ新提案

然ルニ前記提案ノ攻究未タ成ラサルニ先チ七月十九日英國全權ハ本國政府ノ招電ニ接シ日米双方ニ對シ會議ノ休會ヲ請ヒ一旦歸國スルコトナレリ從テ此間三國交渉ハ事實中止ノ姿トナリタルカ越エテ二十八日再び歸來シタルヲ以テ我方ヨリ「ブリジマン」全權ヲ訪ヒ直ニ問題ニ入りタルカ同全權カ閣議ノ結果トシテ帶ヒ來レル新訓令ハ大体従前ノ態度ヲ是認シ日英妥協案ニ依テ交渉ヲ進メムトスルモノニシテ唯（一）八吋砲巡洋艦ニ付一万噸級十二隻ノ外米國ニ二

及六吋砲「エメラルド」級二隻

米國六吋砲「オマハ」級十隻

日本八吋砲古鷹級四隻

五、此ノ他ノ巡洋艦ハ總テ二階級ニ分ツ

（イ）一万噸巡洋艦（ロ）最大排水量六千噸ニシテ六吋ヲ超エサル砲ヲ有スル巡洋艦

六、一万噸巡洋艦ハ英米各十二隻日本八隻ニ限ルコト

七、嚮導驅逐艦及驅逐艦ノ最大基準排水量ハ各々一千八百五十噸及一千五百噸ニシテ兩者共五吋以上ノ砲ヲ裝備スルヲ得サルコト

八、驅逐艦級ノ總噸數ハ其全部ヲ千五百噸及其以下ノ艦船ニ充ツルコトヲ得ヘキモ總噸數ノ一割六分以上ヲ嚮導驅逐艦即チ千五百噸乃至千八百五十噸ノ艦船ニ充ツルコトヲ得サルコト

九、潜水艦ハ二階級ニ区分ス

（イ）千八百噸乃至千噸ノモノ

（ロ）六百噸以下ノモノ

潜水艦ハ五吋ヲ超ユル砲ヲ裝備スルコトヲ得サルコト一〇、潜水艦ハ其ノ階級及艦齡ノ如何ニ不拘英米九萬噸

日本六万噸タルヘク此内三分ノ二以上ヲ（イ）級ノ潜水艦ニ充ツルヲ得サルコト

一一、第六第八及第十項ノ制限ヲ除キ割当總噸數ハ各国任意ニ之ヲ利用シ得ルコト

右提案ニ関シ英國側ヨリ一応ノ説明ヲ為シ殊ニ第四項ニ付米國ノ保有スヘキ「オマハ」級十隻ハ他國ノ保有スル勢力ト均衡ヲ得サルニ依リ之ヲ調節スルノ必要アルコトヲ附言シタルニ米國側ハ米國政府カ八吋砲搭載ノ自由ニ最モ重キヲ置クコトハ同政府ヨリ在米英國大使ニ通シアル所ニシテ英國側ニ於テ充分承知ノ通ナル処英國側ハ如何ニシテ右米國ノ希望ニ副ハルル次第ナリヤト問ヒ英國側ハ之ニ對シ提案第四項及第六項ニ記載セラレ且第四項ニ付附加説明セル所以上ニ進ムコトヲ許サレ居ラスト答ヘタリ米國側ハ重ネテ此ノ点ヲ最重要視スル所以ヲ繰返シ今回英國ノ提案ハ之ヲ政府ニ報告スヘキモ米國全權カ既ニ本國政府ヨリ受ケ居ル訓令ハ極メテ強硬ノモノナルコトヲ指摘シ且八吋砲搭載ノ自由カ第一ノ問題ニシテ一万噸巡洋艦ノ數ノ如キハ第二段ニ來ル問題ナルコトヲ附言シタリ「セシル」卿ハ英國全權ノ有スル訓令モ相當嚴格ノモノナルモ米國側ニ於テ何等提

議セラルルモノアラハ之ヲ考慮スヘキハ勿論ナリト陳ヘ之ニ對シ「ギブソン」全權ハ要旨左ノ如キ政治條文案文ヲ提出シ本問題調節ノ方法トシテ之カ提出ヲ政府ヨリ認可サレタル旨ヲ披露セリ

一九三六年十二月三十一日以前若シ締約國ノ一カ他ノ締約國ニ於テ巡洋艦級ノ總噸數割當ノ調整ヲ必要トスルカ如キ方法ニ於テ同艦級ノ噸數割當ヲ利用シタリト思考スル場合ニハ右締約國ハ一九三一年一月三十一日以後何時ニテモ且六月ノ予告ヲ以テ前記調整カ相互ノ合意ニ依リ遂ケ得ヘキヤ否ヤヲ確知セムカ為本條約加盟國ノ合意ヲ召集スルコトヲ得右合意ニ於テ何等合意ニ達セサルトキハ何レノ締約國モ本條約ヲ終止スルノ意思ヲ通告スルヲ得ヘク該通告ハ條約加盟國ノ右通告受領後一年ヲ限り効力ヲ有ス此ノ場合ニ於テ條約ハ加盟國全部ニ對シ効力ヲ失フ

右文案ニ對シ「セシル」卿ハ英國ノ希望スル所ハ兵裝ノ減縮ニ在ルヲ以テ此ノ如キハ全然同國ノ希望ニ副ハサルモノナリト斷シ「ブリジマン」全權ト共ニ交々八吋砲ヲ制限セサル條約ハ攻撃的武裝ヲ認ムルモノニシテ軍備制限ノ趣旨

ニ合致セサルカ故ニ英國委員ハ此種條約ニハ斷シテ調印スルヲ得スト陳ヘ進ンテ英國提案ハ今日直ニ之ヲ新聞ニ公表シタキ旨ヲ以テセリ顧フニ其ノ語調ヨリ察スルニ英國全權ハ商議決裂ヲ覺悟シ偏ニ自國ノ態度ヲ一日モ早ク世上ニ發表シ其ノ立場ヲ弁明セムトスルニアリタルカ如シ何レニセヨ右公表ニ對シ日米共別段反對スヘキ理由ナク其ノ事ニ決定スルヤ英國側ハ更ニ三十日ヲ以テ第三回總會議ヲ開カムコトヲ提議シ右期日ニ付二三応酬アリタルカ結局八月一日ト決定セリ

第十一章 第三回總會議前ノ形勢ト我調停案

以上縷説ノ如キ英米間意見疏隔ノ情勢ノ下ニ今ヤ本會議ハ決裂ノ道途ニ向テ最後ノ歩ヲ進メツツアリタル処八月一日ノ總會議開催ニ對シテハ米國ニ於テ其ノ為スヘキ演説ノ打合上多少之ヲ便トセサルモノアルコトヲ理由トシテ一日又ハ二日ノ延期ヲ提議スル所アリ結局數日延期ノコトトナリタルカ其ノ真意ハ米國トシテ總會議ニ於テ會議決裂ノ止ムナキヲ言明スル以上其ノ理由ヲ説明セサルヘカラス從テ勢英國案ノ内容ヲ分析シテ其ノ非ヲ指摘スルノ避ケ難キニ至ルヘキ処然ル上ハ英國側ニ於テ縱令一縷ノ望ヲ抱クモノア

リトスルモ最早商議盛返シノ望ハ毫モ之ナキニ至ルヘキニ付若シ英國側ニ於テ過般ノ提案以外何等カノ代案アリトセハ總會議以前ニ之ヲ提出スルノ要アリト言フニ在リテ一種ノ最後通牒トモ看做サレタリ

此間會議地壽府方面ニ於テハ此際日本全權ニ於テ英米兩者ノ間ニ立チテ調停ノ舉ニ出ツヘシトノ觀測ヲ為ス者頗ル多ク我方ノ意向ヲ問合セ來ル向モ尠カラサリシカ妥協点ヲ見出し得ヘキ見當モ付カサル目下ノ形勢ニ於テ輕々シク手出しスヘキニ非スト考ヘ敢テ請訓スルヲ控ヘ居リタル処會々一日朝「ブリジマン」全權我方ヲ來訪シ前日米國全權ノ來訪ヲ受ケタルカ其ノ言フ所ニ依レハ總會議席上同全權ノ演説アラハ其ノ後ハ商議繼續ノ望全然消滅スヘキニ付若シ代案アラハ此ノ際速ニ提示セラレタシトノコトナリシカ英國側トシテハ既ニ凡有ル案ヲ提出シ尽シタルコトトテ代案ナルモノヲ有セス加之八吋砲制限ニ關スル英國政府ノ態度ハ同全權ノ倫敦歸還當時ヨリ一層強硬トナレル觀アルニ付英國トシテハ最早策ノ施スヘキモノナシト告ケ我方ニ於テ何等カ解決ノ案ナカルヘキヤト尋ヌル所アリタリ依テ我方ニ於テハ右申入ノ次第モアリ何等調停案ノ按出ニ努メ結局第

一英米ヲ或一致点迄導キ得ルノ見込アルコト及第二其ノ一致点カ我ニ執リ少クモ不利ナラサルコトノ二要素ヲ満足スヘキ案トシテ漸ク要領左ノ如キ一案ヲ得タリ

一、日本及英國ハ各其ノ既定計画ニ依ルノ外此ノ上補助艦ヲ一九三一年末前ニ建造セサルコトヲ約ス但シ代換ハ此ノ限りニアラス且右建造計画ハ第二項ニ依ルノ外ハ變更セラレサルヘシ

二、一万噸級巡洋艦ノ數ハ英米各十二隻日本八隻ヲ超エサルコト英國ハ其ノ既定計画ニ於ケル巡洋艦噸數ノ殘部ヲ其ノ好ム所ニ從ツテ使用スルコト勝手タルヘシ
小型巡洋艦ノ單艦最大噸數ハ八千噸トス

三、米國ハ一九三一年末前ニ於テハ其ノ補助艦勢力ハ英國ノ夫レヲ超エサルヘキコトヲ約ス

各締約國ハ一九三一年末前ニ決定セラルヘキ造艦計画ニ關スル報道ヲ他ニ供給スヘキコトヲ約ス但シ締約國ノ或者カ他ノ締約國ノ造艦計画ノ結果トシテ本協定ノ改正ヲ必要トスルトキハ右改正ノ目的ヲ以テ會議召集セラルヘキコト

四、補助艦問題ニシテ本協定ニ規定セラレサルモノハ今

而シテ劈頭「ギブソン」全權ハ我案ニ依レハ既定計画ヲ増サストアル処米國側ノ計算ニ依レハ英國ノ巡洋艦建造計画ハ一九三一年ニ於テ四十六萬噸トナルヘク右ハ米國カ討議シ得ヘキ最高噸數ヲ遙カニ超ユルモノニテ米國トシテハ此ノ際我案ニ依テ討議ヲ繼續スルコト困難ナリト陳フルヤ英國ノ噸數ニ付英米間ニ押問答ヲ交ハシタルカ次テ「ブリヂマン」全權ハ英國政府ハ我案中既定計画其ノ他二三ノ字句ニ付説明ヲ受クルノ必要アルモ其等ノ点ニ付英國ノ解釈誤リナキコトヲ知ルニ於テハ全部ニ付考慮スル意向ニシテ右ニ關シ当方ヨリノ電報ヲ俟チ重ネテ本日閣議ヲ開クコトトナリ居レリト披露セリ

英國側ノ態度右ノ如クナルニ拘ラス米國側ハ既ニ我案ヲ以テ進ム能ハストシ其ノ他ニ何等名案ナキヲ以テ愈々總會議ニ臨マサルヲ得サル処同會議ニ於テ三国互ニ喧嘩腰ニテ議論ヲ弄スルトキハ世間ニ對シ不体裁ナルノミナラス三国政府カ将来軍縮事業ヲ繼續完成スル上ニ大ナル妨害トナルヘキニ鑑ミ同會議ニ於テハ從來ノ如ク三国別々ニ演說スルコトヲ避ケ代フルニ今次會議ノ目的經過ヲ略叙シ重要問題ニ付三国間ニ妥協ヲ見ル能ハサリシ事情ヲ説明シ茲ニ止ムナ

後成ルヘク速カニ而シテ一九三一年ノ初メヨリ遅カラサル時期ニ開カルヘキ會議ニ於テ議定セラルヘシ

依テ我方ハ同日直チニ之ヲ米國側ニ内示シ右ハ取急キ作成セル概略ノ一ツ書ニシテ其ノ杜撰ナルコトハ固ヨリ自ラ之ヲ認ムル所ナルモ此ノ場合此ノ案ニテモ尚會議ノ決裂ニ優ルモノアルヘシト考ヘ之ヲ提示スル次第ナリト説明シタルニ米國側ハ再讀ノ上翌朝迄熟考ノ時ヲ与ヘラレムコトヲ求ムルト共ニ我方カ英米調停ノ為苦心セル好意ニ對シ深ク謝意ヲ表スルモノナル旨ヲ繰返セリ

之ニ引續キ翌二日我方ハ更ニ英國全權ヲ往訪シ該案ヲ提示シ必要ノ説明ヲ付シタルニ英國側ハ之ヲ熟讀シタル後同全權ノ現ニ有スル訓令ハ我提案ヲ承諾シ得ヘキ限リニ非サルモ不取敢之ヲ内閣ニ電報スヘキ旨ヲ答ヘタリ

然ルニ米國側ハ我カ提案ニ對シ回答ヲ渋リ其ノ態度頗ル透明ヲ缺クモノアリシカ英國側ハ三日午後訓電ニ接スル予定ニテ兎モ角翌四日ニ定マレル總會議ノ件ニ付全權會議ヲ開クコトトナリタルカ米國側ハ我提案ニ依リ會議ノ運命ヲ回復スルコト不可能ナリト見タルカ或ハ之ヲ好マサルカ何レニシテモ總會ニ於ケル善後処分案ヲ用意シテ會議ニ臨メリ

ク一先ツ會議ヲ休会スルモ各本國政府ニ於テ協議ノ上本會議ヲ重ネテ召集シ竟ニ軍備縮小ノ目的ヲ達スルノ必要ヲ述ヘタル一ノ共同宣言ヲ作成シ之ヲ議長ヨリ朗讀シ了ツテ休会ヲ宣シテハ如何ト提議セリ然ルニ英國側ハ之ニ對シ本會議ニ於テ自國ノ立場ヲ詳細説明スヘシトハ英國全權ノ受ケタル政府ノ嚴命ナレハ更ニ訓令ヲ受ケスシテ此ノ義務ヲ避クル能ハスト主張シタル結果結局三国共札讓的語調ヲ以テ緩和ナル説明演說ヲ為シタル後議長ヨリ前記共同宣言ヲ提案シ日英之ニ賛成スルコトニ決シ該共同宣言文ハ同夜直ニ三国委員ヲ設ケ之ヲ決セシムルコトトシテ散会セリ

第十二章 第三回總會議ト休会

前頭三国共同宣言案ハ四日午前二至リ漸ク完成シタルヲ以テ更ニ全權會議ヲ開キテ之ヲ議シ多少ノ修正ヲ加ヘテ可決シタルカ同會議中英國全權ヨリ専門委員會ニ於テ一致ヲ見タル諸点ヲ纏メテ一ノ協定ヲ作ルカ又ハ少クトモ之ヲ共同宣言中ニ加フルコトトシタキ旨ヲ提議シ我方ヨリ詳細ノ点ハ更ニ専門家ヲシテ研究セシムル必要アルヘキモ主義トシテ異議ナキ旨ヲ陳ヘタルニ米國側ニ反對アリテ止ミタリ斯クテ同日午後最終總會議愈々開催ノコトトナリ英、日、米

ノ順序ニテ各全権ノ演説アリ何レモ本会議成功ノ目的ニ向ツテ為セル努力ノ跡ヲ顧ミ巡洋艦問題ニ付協定遂ニ不成立ニ終リタル顛末並ニ該問題ニ対スル各自ノ主張ヲ再説スルト共ニ本会議ノ結果如何ニ拘ラス三国間ニ造艦競争ノ開始セラルルカ如キコトナキヲ信スルト同時ニ他日成ル可ク早キ機会ニ各国ニ満足ナル軍備縮少ノ有效ナル協定ヲ見ルヘキヲ疑ハサル旨ヲ陳ヘタリ次テ議長ヨリ大要左記趣旨ノ共同宣言ヲ朗読シ茲ニ約一月半ニ亘レル本会議モ遂ニ何等ノ協定ニ達スルコトナク休会セラルルニ至レリ

三国共同宣言

宣 言

一、米国大統領ノ提議ニ從ヒ日英米全権ハ補助艦制限ヲ考量スルタメ六月二十日「ジュネヴア」ニ会合セリ
二、會議ハ同日ヨリ八月四日マデ継続セラレ其ノ間全権並顧問ハ本目的達成ノ各種方法ニ付キ詳細ニ亘リ考量セリ、而シテ多数重要ナル問題ニ付予備の合意ニ到達シタルトコロ其ノ或部分ハ専門委員会報告中ニ収メラレタリ、此等合意ノ諸点ハ専ラ駆逐艦及潜水艦ノ制限ニ関スルモノニシテ會議ガ巡洋艦制限問題ヲ討議スルニ及ンデ初メテ難關ニ逢着セリ、此等ノ難關ハ各国政

ルコトヲ得ベシト主張セリ

五、日本全権ハ真ニ補助艦ヲ制限セムガタメニハ低キ総噸数ヲ定メザルベカラズトノ見解ヲ開示セリ八吋砲巡洋艦ノ問題ニ付テハ日本政府ハ主義トシテ如何ナル制限ニモ同意スルヲ得ズト雖モ若シ日本ノ割当水上補助艦噸数ニシテ三十一万五千噸ニ決定セラルル場合ニハ既定計画ニヨルモノヲ除キ一九三六年マデ此ノ上八吋砲巡洋艦ヲ建造セザルコトヲ声明スルヲ難シトセザリキ

六、上記各種ノ異レル見解ヲ調和セムガタメ種々ノ方法ヲ考究シ相当ノ成績ヲ挙げ意見ノ相違ヲ減少スルヲ得タリト雖モ主トシテ六吋砲ヲ備フル多数ノ艦船ヲ得ムトスル英國全権ノ要求ト出来得ル限り低キ総噸数ヲ設ケ其ノ範圍内ニ於テハ華府條約ノ制限ヲ超エザル限り兵装ノ自由ヲ認メムトスル米國全権ノ希望トヲ調和スル適當ノ案ヲ発見セザリキ

七、右困難ニ顧ミ三国全権ハ一先ゾ會議ヲ休会シ茲ニ各自ノ所見ヲ率直ニ声明シ問題ヲ更ニ右本國政府ノ攻究ニ委ネ依テ以テ近く解決ニ達セムコトヲ期スルノ賢明

府ガ本問題並之ガ解決ノタメ提示セラレタル各種ノ方法ニ対シ更ニ考量ヲ加フルノ機会ヲ得ルマデ現在ノ交渉ヲ延期スルノ得策ナルヲ思ハシムル底ノモノナリキ
三、米國全権ハ其ノ当初提出セル総噸數即チ巡洋艦級ニ於テ英米各二十五萬噸乃至三十萬噸日本十五萬噸乃至十八萬噸ノ制限内ニ於テ各国ハ各自國ノ要求ニ最モヨク適応スト思考スル隻數及種別ノ艦船ヲ建造スルノ自由ヲ有スヘク同時ニ華府條約ノ制限内ニ於テ其ノ適當ト認ムル兵装ヲ施スノ自由ヲ有スベシトノ意見ヲ提示セリ

四、英國全権ハ一切ノ種類ノ艦艇ニ付其ノ大サヲ制限スベキヲ提議シタルモ総噸數ノミニヨリ制限セムトスルノ主義ニ対シ斯クテハ最大艦船及最大備砲ガ自ラ標準トナルニ至ルノ虞アルヲ理由トシテ反対セリ英國全権ハ先ヅ一万噸八吋砲巡洋艦ノ數ヲ嚴重ニ制限シ次ニ口径六吋排水量六千噸ヲ限度トスル第二級巡洋艦ヲ設定セムコトヲ要望シ右第二級巡洋艦ノ設定ニヨリテノミ英帝國ハ総噸數ヲ不当ニ拡大スルコトナクシテ其ノ特殊ノ事情及必要ニ応ズルニ欠クベカラザル隻數ニ達ス

ナルコトヲ信ズルモノナリ

八、尚三国全権ハ華府海軍條約第二十一条第二項ニ基キ召集セラルベキ會議ハ締約國間ノ協議ニ依リ右條項ノ予定セル一九三一年八月ヨリモ早キ期日ニ於テ之ヲ開キ右會議ニ於テ決定セラルベキ協定事項ハ同年十一月主力艦建造計画ノ実行ト同時ニ其ノ効力ヲ生ゼシムルヲ適當ト認メ其ノ趣旨ヲ以テ各本國政府ニ進言セムコトヲ約ス

九、以上各項ノ進言ヲナシ而シテ各国間ニ一致ヲ見タル諸点並一致ヲ見ルニ至ラザリシ事項ニ関スル前諸項ヲ報告スルニ方リ三国全権ハ今回會議ノ遭遇シタル障礙ハ海軍軍備制限ニ一步ヲ進メムトスルノ努力ヲ終止セシムルモノニアラズシテ寧ろ各国間ニ到達シ得タル合意ノ程度ニ顧ミ將又今回ノ會議ニ依リ各自ノ立場ヲ闡明シ得タルノ点ニ於テ各本國政府間合議ニヨリ見解ノ相違ヲ調和シ遠カラズ補助艦制限ニ関スル協約ヲ完成シ經費節減ノ目的ヲ達スルト共ニ各国國防ノ安全ヲ害スルコトナクシテ相互信頼及ヒ親善關係ヲ助長スルニ至ルベキヲ確信スルモノナルコトヲ茲ニ記録ニ留メム

日	付	時	刻	会	議	会	場	備	考
六月	二十日	午後三時		第一回総会		パレー、デ、ナシヨン		議事進捗方法主力艦問題	
	二十一日	午前十一時		第一回幹部会		同		制限免除艦及水上補助艦ノ類別	
	二十二日	午前十一時		第一回専門委員会		同		巡洋艦問題	
七月	一日	午前十一時		第二回全権懇談会		同		巡洋艦問題	
	二日	午後五時半		第三回専門委員会		同		巡洋艦問題	
	三日	午前十時半		第四回専門委員会		同		巡洋艦問題	
	四日	午後五時半		第五回専門委員会		同		巡洋艦問題	
	五日	午前十時半		第六回専門委員会		同		巡洋艦問題	
	六日	午後五時半		第七回専門委員会		同		巡洋艦問題	
	七日	午前十時半		第八回専門委員会		同		巡洋艦問題	
	八日	午後五時半		第九回専門委員会		同		巡洋艦問題	
	九日	午前十一時		第二回幹部会		同		巡洋艦問題	
	十日	午前十時半		第三回幹部会		同		巡洋艦問題	
	十一日	午後四時		第二回全権懇談会		同		巡洋艦問題	
	十二日	午後十時		第一回混成委員会非公式会合		同		巡洋艦問題	
	十三日	午前十一時		第二回混成委員会非公式会合		同		巡洋艦問題	
	十四日	午後三時		第三回全権懇談会		同		巡洋艦問題	
	十五日	午後三時		第二回総会		同		巡洋艦問題	
	十六日	午後三時		第四回全権懇談会		同		巡洋艦問題	
	十七日	午前十一時		第五回全権懇談会		同		巡洋艦問題	
	十八日	午前十一時		第六回全権懇談会		同		巡洋艦問題	
	十九日	午後三時		第六回全権懇談会		同		巡洋艦問題	
	二十日	午後三時		第六回全権懇談会		同		巡洋艦問題	

ト欲ス
第十三章 結 論
進シテハ世界ノ平和ニ実質的貢獻ヲ為シ退イテハ国家民人ノ財政的負担ヲ軽減セムトスル崇高偉大ナル使命ヲ以テ開カレタル日、英、米三国海軍軍備縮小会議力遂ニ前來縷説ノ如キ道途ヲ経テ事実終局ヲ告クルニ至タルハ寔ニ遺憾ノ極ナリ
抑々軍備ノ不必要ナル拡張ハ國際的猜疑心ヲ誘発シ他國ノ軍備競走ヲ招来スルニ於テ其レ自身世界平和ニ對スル危険性ヲ包有スルコト固ヨリ言ヲ俟タスト雖現下ノ國際政局ニ於テ各國各々其ノ特殊ノ事情ノ下ニ國防ノ安全ヲ確保シ得ヘキ最小限度ノ兵力ヲ保有スヘキハ蓋シ必然ノ數ナリ之レ付録(一)

三国海軍軍備制限會議日誌

日	付	時	刻	会	議	会	場	備	考
六月	二十日	午後三時		第一回総会		パレー、デ、ナシヨン		三国提案	
	二十一日	午前十一時		第一回幹部会		同		専門委員会ノ設置	
	二十二日	午前十一時		第一回専門委員会		同		三国提案ニ関スル資料交換	

今次ノ會議ニ於テ英米兩國カ巡洋艦問題ニ付其ノ保有噸數及備砲ニ関シ竟ニ意見ノ一致ヲ見ルニ至サリシ所以ニシテ此兩者ノ相互ニ懸隔セル特殊事情ヲ調和スルハ會議ノ全般ヲ通シテノ最大難関ナリシナリ
本委員等ハ此ノ間ニ処シ終始率直公平ノ態度ヲ持シテ渝ラス苟モ現有勢力以上三軍備ノ擴張トナルカ如キ提案ハ飽ク迄之ヲ卻ケ以テ帝國ノ軍備縮小ニ對スル誠意ヲ示スト共ニ英米兩國ノ論争ヲ調和スルカ為有ユル努力ヲ試ミ以テ帝國ノ本會議成功ニ對スル熱心ヲ表白セリ會議ハ不幸ニシテ竟ニ何等ノ協定ニ達スルコトナクシテ終リタリト雖帝國政府ノ公平真摯ナル立場カ此ノ機ニ於テ汎ク中外ノ認識スル処トナリタルハ本委員等ノ以テ聊カ自ラ慰ムル所ナリ

八月 三日	午後十時	第七回全権懇談会
同日 四日	午前十時半	第八回全権懇談会
同日	午後三時	第三回総会

付録(二)

組 織

第一節 各国全権委員一覧

日 本	朝鮮 総 督	子爵 齋藤 實
米 国	仏蘭西国駐劄特命全権大使	子爵 石井菊次郎
白耳義国駐劄米国特命全権大使	ヒユウ、ギブソン	
海 軍 少 将	ヒラリ、ビー、ジョーンズ	
英 帝 国	海 軍 大 臣	ダブリュ、シー、ブリヂマン
	ランカスター公領尚書	子爵 セシル、オブ、チエルウッド
海 軍 中 将	サ、エフ、エル、フィールド	
(海軍少将エ、デイ、ピー、アール、パウンド後		

之ニ代ル)

加奈陀代表

濠州代表

新西蘭代表

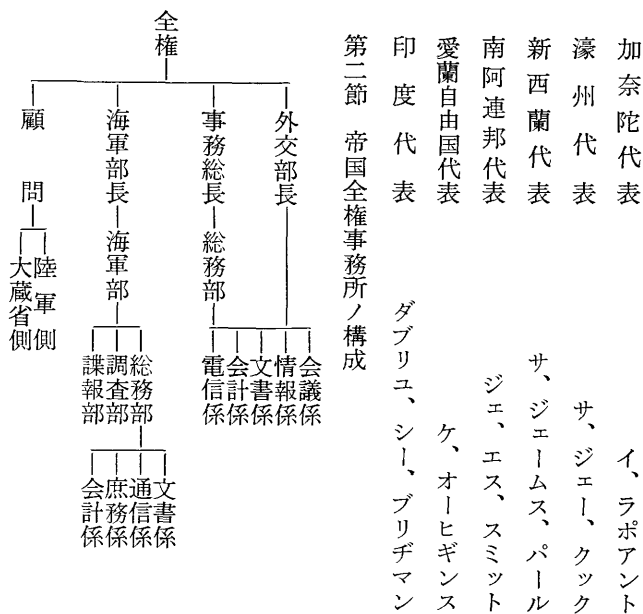
南阿連邦代表

愛蘭自由国代表

印 度 代 表

第二節 帝国全権事務所ノ構成

ウイルソン公使宅	日本側最終妥協案討議
同	三国共同声明案可決
ホテル、デ、ベルグ	三国全権ノ態度表明共同声明可決



事務分担表

全 権

齋藤子爵

石井大使

全権付秘書

齋藤全権付

丸山 嘱託

同

藤原秘書官

同

小松 嘱託

同

水野海軍少佐

石井全権付(兼)

米沢書記官

事務総長

佐藤公使

外交部長

佐分利条約局長

総務部

会 議 係

白鳥書記官

西 書 記 官

米 沢 書 記 官

山 形 書 記 官

工 藤 官 補

阪 本 書 記 官

高 島 書 記 生

兼

藪内書記生

會 計 係

松隈事務官

川口書記生

電 信 係

早間 官 補

高橋書記生

西 田 属

海軍部長

小林海軍中將

補 佐

原海軍少将

總務部長

堀海軍大佐

文 書 係

小林海軍中佐

野村海軍中佐

佐藤海軍中佐

榎本海軍書記官

通 信 係

円山海軍少佐

宮崎海軍大尉

庶務會計係

荒木主計中佐

小林海軍中佐

調査部長

古賀海軍大佐

小林海軍中佐

野村海軍中佐

佐藤海軍中佐

宮崎海軍大尉

柳原海軍機関少佐

荒木主計中佐

藤本造船中佐

榎本海軍書記官

諜報部長

豊田海軍大佐

水野海軍少佐

ベーター博士

杉山陸軍少将

河村砲兵大佐

賀屋大蔵事務官

顧問

〔付二〕

194 10月1日 全權上奏文

齋藤全權上奏文

上奏文

臣 實 菊次郎 等

曩ニ寿府軍備制限會議參列ノ大命ヲ拝シテ任ニ寿府ニ赴キ
六月二十日會議開会セラレテヨリ八月四日休会ヲ告クルニ
至ル迄一月半其ノ間英國全權委員ノ帰国ニ依リ一週日ノ休
会ヲ見タルヲ除キ或ハ総會議ニ或ハ幹部会ニ或ハ非公式懇
談会ニ殆ント連日ニ互リ会合ヲ重ネ又随員ヲシテ他国委員
ト会同シテ各種専門的問題ノ討議ニ当ラシメタリ

抑モ本會議ハ日英米仏伊五国ノ間ニ補助艦制限ノ協定ヲ遂
ケ以テ華盛頓會議ノ成果タル主力艦問題ニ関スル条約ト相
俟テ海軍軍備制限ノ実ヲ全ウシ之ニ依リ戦争ノ惨禍ヲ防止
スルト共ニ国民ノ経済的負担ヲ一層軽減セムコトヲ目的ト

シテ米国大統領ニ依リ提唱セラレタルモノナリ仏伊両国ハ
之カ参加ヲ肯スルニ至ラサリシト雖右目的ノ達成ヲ顧念ス
ル日英兩國ハ欣然該提議ニ賛シ茲ニ三國間ノ會議開催ヲ見
ルニ至リタルモノナリ

會議ノ劈頭即六月二十日第一回總會ニ於テ米国全權委員
及英國全權委員ヨリ各々海軍軍備制限ニ関スル提案ヲ発表
シ我方ニ於テモ亦帝國ノ具体案ヲ提示セリ今此ノ三案ヲ檢
討スルニ米国提案ハ補助艦ニ付各国ノ保有スヘキ総噸数ノ
最大限ヲ定ムルト共ニ右割当ヲ決スルニ付大体華盛頓條約
ノ比率ヲ適用セントスルモノニシテ巡洋艦ニ付テハ英米各
二十五萬噸乃至三十萬噸日本十五萬噸乃至十八萬噸驅逐艦
ニ付テハ英米各二十萬噸乃至二十五萬噸日本十二萬噸乃至
十五萬噸潛水艦ニ付テハ英米各六萬噸乃至九萬噸日本三萬
六千噸乃至五萬四千噸ト限定セムトスルニ在リ之ニ對シ英
國提案ハ先ツ國費節減ノ見地ヨリ主力艦ニ関スル制限ヲ提
議シ第一ニ其ノ艦齡ヲ二十年ヨリ二十六年ニ延長シ第二ニ